

平成28年度 文部科学省委託

幼児教育の推進体制構築事業(1年次)

- 「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究
- 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

目次

■はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査研究テーマ	
調査研究課題	
■善通寺市 訪問の視点・・・・・・・・・・・・・・・・	2
調査研究計画	
調査研究体制	
■自治体の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
■1学期訪問における幼児教育アドバイザーの意見・・・・・・・・	5
■アンケート調査による保育者の意識の実態について・・・・・・・・	9
■市内幼児教育施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	17
■幼児教育スーパーバイザー、アドバイザーからの指導・助言・・・	48
■おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
本年度の成果と課題	

はじめに

善通寺市では、平成27年度まで幼児教育力総合化推進事業として園児に対して、外部指導者による文字あそび、音楽あそびなどを通した小学校への滑らかな接続を図る取組を行ってきた。平成28年度からはさらなる幼児教育の充実に向け、市内の公私立幼稚園・保育所（園）15施設全てと市教育委員会・市こども課が連携し、幼稚園教諭・保育所（園）保育士の資質・能力の向上を図る取組に重点を置く考えである。

これまで幼稚園では、園内の教職員のみによる研修が中心に行われてきている。本年度は、本事業による幼児教育アドバイザーとして大学教授等を迎え、専門的な知見からの助言や指導を受けることにより、確かな幼児理解や環境設定に基づいた実践を積み上げる機会としたい。また、保育所（園）と幼稚園が相互参観し、保育士・幼稚園教諭が共に研修を深めたり、情報交換をしたりできるようにしたい。そうすることで、さらに保育所（園）と幼稚園の連携が深まり、市の幼児教育の推進体制構築が推進されると考える。

研修会には県教育委員会から幼児教育スーパーバイザーの参加も求め、様々な見地からの助言・指導が受けられるように計画する。

調査研究テーマ

- 保育所（園）、幼稚園、認定こども園等を巡回指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究（幼児教育アドバイザーとして必要とされる資質・能力に関する研究を含む）
- 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

調査研究課題

平成27年策定の善通寺市「教育施策の大綱」～学んでよかった・学びつづけたいまち 善通寺をめざして～に基づき、幼児教育の充実のための具体的な取り組みとして、幼児教育アドバイザーを配置し、保育所（園）・幼稚園への教育内容や指導方法、指導環境の改善について助言・指導により、教員の資質・能力の向上を図る。

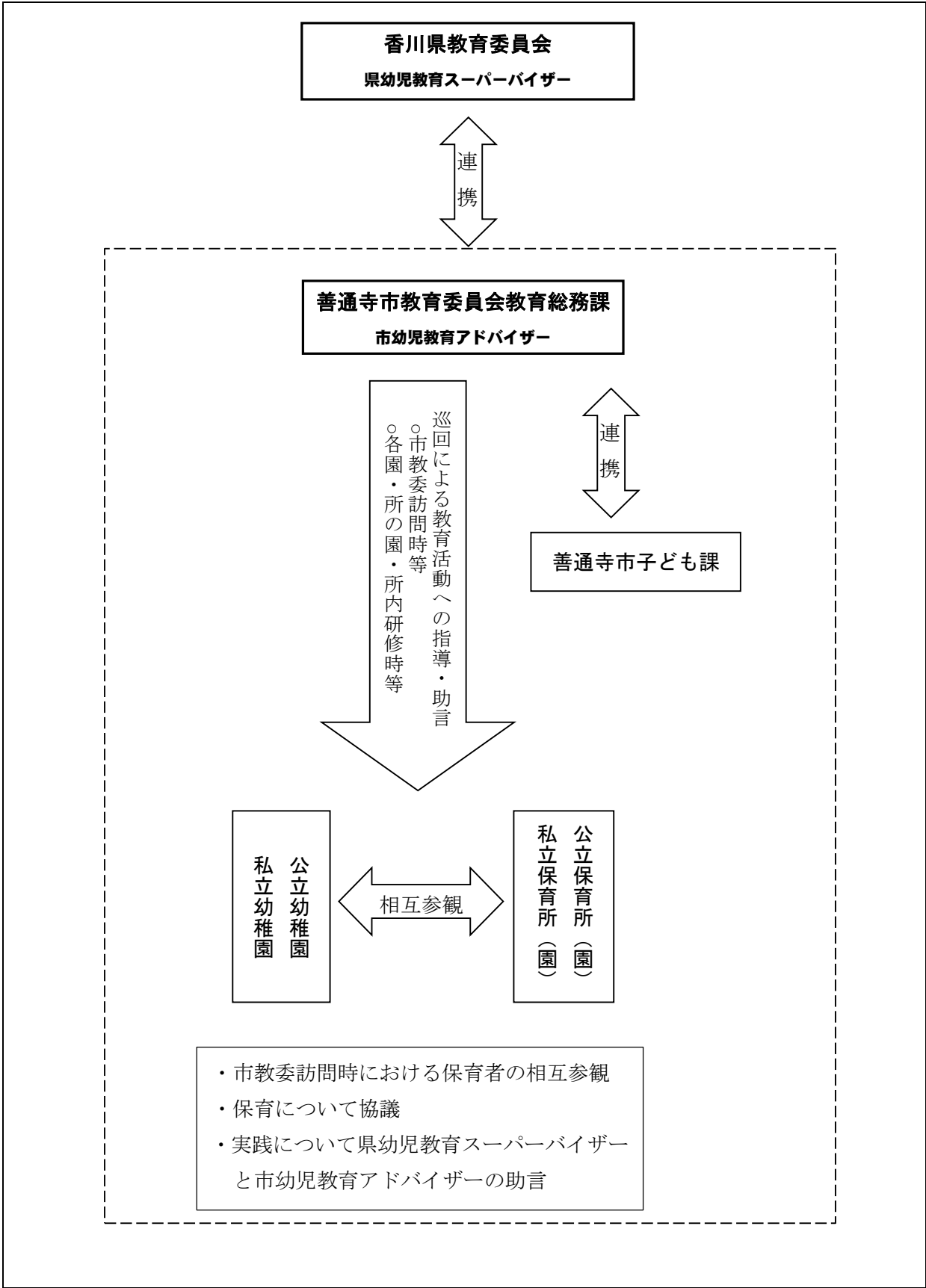
善通寺市 訪問の視点

『一人一人の良さや可能性を伸ばす子どもの主体的な活動の充実』

調査研究計画

月	実施内容	幼児教育アドバイザー 育成研修等	普及・啓発
H27年度 3月	幼児教育推進体制構築事業実施要項作成		
H28年度 4月	幼児教育アドバイザー委嘱 ※ 市内にある大学の教授で幼児教育の専門的知見や豊富な実戦経験を有する人材に委嘱		
5月	前期・市教委保育所（園）・幼稚園訪問（15園・所）	第1回（県実施） 県幼児教育スーパーバイザー・ 市幼児教育アドバイザー協議会	
6月	各園研修会への 幼児教育アドバイザー派遣		
7月		調査研究実行委員会・ 幼児教育アドバイザー 協議会	
8月			
9月	後期・市教委保育所（園）・幼稚園訪問（15園・所）	調査研究実行委員会・ 幼児教育アドバイザー 協議会	
10月			
11月		第2回（県実施） 県幼児教育スーパーバイザー・ 市幼児教育アドバイザー協議会	
12月			
1月		報告のまとめ	
2月			
3月	成果と課題のまとめ（県）		

調査研究体制



自治体の概要

規模（平成29年3月現在）																
都道府県・市区町村名											人 口					
善通寺市											32,617人					
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校	
9			0			0			6		0		0		8	
園			園			園			か所		園		園		校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私		
0	8	1	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0		
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園		

平成28年1学期の訪問時における幼児教育アドバイザーの意見

○：今回みられたよさ △：課題 ◎：今後さらに大切にしてほしい観点 ☆：その他

視点① 一人一人の良さや可能性を伸ばす教育活動の充実

- 各年齢のめあて、期のめあてを明確にした活動が行われていた。
- 教具が充実しており、一人一人のよさや可能性を伸ばす教育活動につながっていると感じられた。
- 子どもたちが生き生きとしており、自由活発に活動している。
- 教師のかかわりが明るく生き生きとしている。子どもたちがゆったりと遊びこんでいる。また、教師もいっしょに遊びこめている様子もよかった。
- 遊びを通して一人一人が主体的に活動しており、自由な活動の中で自ら見出した工夫をする子どもも見られた。また、子ども同士が協力的に活動する姿が見られた。
- △ 自由活発な活動が多く見られたが、一部の活動において、一斉の活動が多く、小学校的な空間が見られた。
- △ 活動の多くが教師主導であり自由度が少なく、子どもの自発性を育てる環境としては不十分に感じられた園・所も見られた。
- △ 受動的な空間が感じられた。



- ◎ 今の子育て環境として、いかに発想力、思考力、体力、気力等を高めるかということが急務であるとすれば、「自発的に遊べる」「遊びこめる」環境づくりが大切である。
- ◎ 「教師主導 > 子どもの自主性」から「教師主導 < 子どもの自主性」へと意識していくのが大切である。
- ◎ 自分の思いで試行錯誤したり、教師や友だちをまねたりすることで、楽しさ、悔しさ、うれしさ等の心情を味わう過程が大切である。

- ◎ 気を付けなければならないのは、準備しすぎて教師の描いたゴールが明瞭であることが、子どもたちの自らの発展を逸脱させてしまわないようにすることである。
- ☆ 「先生に言われたからする」ではなく、「自立の土台」を育てたい。「自立の土台」は、「自ら行おうとする心情を伴う態度」である。
- ☆ 幼児教育における「生きる力」、「豊かな心」の意味を今一度考えるいい機会である。

視点② 地域の自然や人々とかかわる体験活動の充実

- 園庭に自然がたくさんあり、子どもたちが存分にかかわっている。
- 家庭や畑など、日常の生活場面を再現する遊びが取り入れられていた。
- 季節感あふれる活動が行われている。



- ◎ 我を忘れて遊ぶ仕掛けを提供できる地域社会でありたいと感じた。
- ◎ 保育者がいっしょに遊びこんだり、率先して遊びのモデルとなったりする姿が見られたらよいのではないか。
- ◎ 「遊び」を仲介として、自然や友だちとかかわれるような、教師からの「言葉かけ」が重要である。

視点③ 自分の思いを表現する態度の育成

- 先生方が明るく、表情豊かで、子どもたちが安心して自己表現できる空間を作っている。
- 場（環境）の工夫からか、最後まで、飽きることなく遊びこんでいる姿が見られた。
- 今日の活動の振り返りとして、子どもの司会で気付いたことを発表する場が設定されていた。

△ 素晴らしい活動が多かったが、この年齢の子どもに「発表」は必要だろうか。途中、必要に応じて先生が「みんな、これ見て。〇〇君が△△つくったよ。」と広げるので十分ではないかと感じられた。せっかくしっかりと心から遊びこんでいるので・・・。「発表」については、その扱い方に検討の余地がある。

△ 自分の思いを表現する子や先生と子どものかかわり（言葉のやりとり）が少なかったように感じられた。



◎ その活動が、解体、変容、発展する様子が見られる、子ども自身の枠を超えた思いが表現できる環境づくりが必要ではないか。

◎ 人前で発表する経験は大切であるが、それは生活の中や遊びの中で生まれた「自分の思い」、「自分の発想」、「自分の意欲」が土台である。まず、この土台を育てることが大切である。

◎ 子どもの「生きる力」は、のびのびと自己表現する中で育つ自己肯定感や自信であると思う。あいさつ等ができるかどうかその子どものその表れであると捉えたい。

◎ 遊びを変化させていくのは、「先生？」、「子ども？」・・・ぜひ「子ども」であってほしい。

◎ 「作りたい」→「できた」→「言いたい」という子どもたちの思いを大切に扱っていくことが重要ではないか。

◎ 自分の思いを表現したいという意欲は、自分の思いを充分受け止められたときに生まれてくるものである。教師主導では、子どもたちは従う気持ちが大きくなり自己表現の意欲は高まらない。教師と子どもをつながり、子ども同士をつながり、信頼関係の構築を土台に子どもたちの自己表現は成り立っていると考えられる。

◎ 各担任の細やかなかかわり・気配り・言葉かけが素晴らしかったが、一人担任には限界があるので、複数担任制の必要を感じる。

視点④ 保・幼・小、及び家庭との細やかな連携協力の推進

- 幼・小とのつながりがあり、小学校就学への不安も小さく、また、幼・小からの行事案内もあり、卒園後の子供たちの成長を見る機会もある。



- ◎ 保幼小連携で、つなげなければならないものは何か今一度考えたい。
- ◎ 各小学校の年間行事予定があると、連携の見通しのために大変役立つのではないか。
- ◎ 保幼小連携、小中連携は、小学校の予備校、中学校の予備校となつてはならない。保育所（園）、幼稚園からきた子が困らない小学校、小学校からきた子が困らない中学校という見方も大切である。
- ◎ 保育所（園）・幼稚園からスムーズに小学校に就学するためには、今後の保・幼の連携が大切であるという思いをもっている。
- ◎ 現在も市内の幼稚園・小学校と連携を行っているが、今後、さらに保・幼・小連携を深めていきたいという思いをもっている。

その他：訪問・研修に関わること

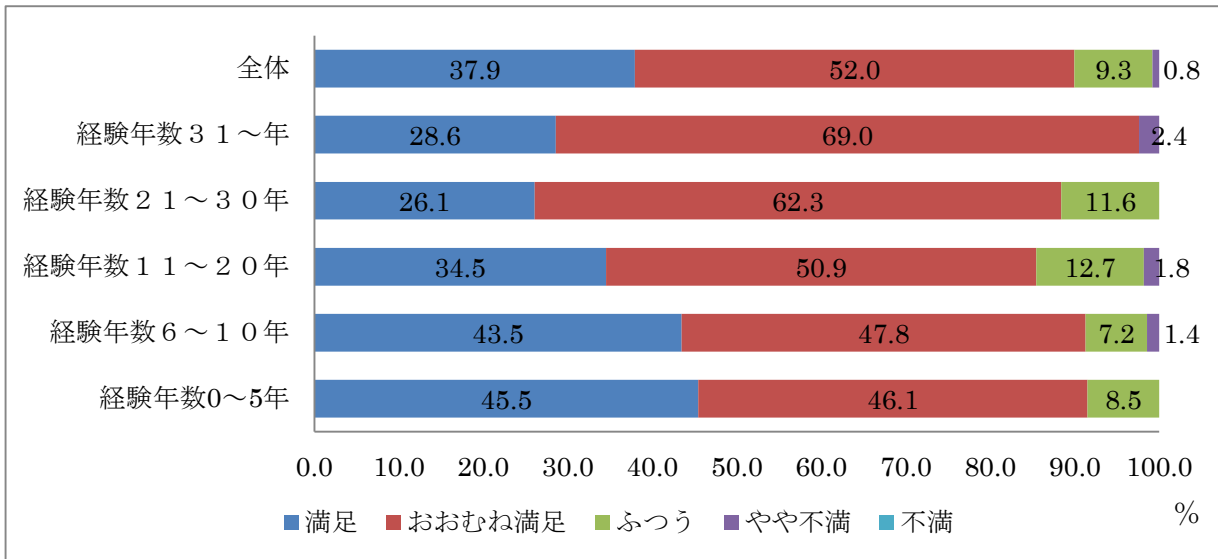
- ☆ 保育士と幼稚園教諭との研修を考えたい。
- ☆ アドバイザーと保育者との協議の場を設けていきたい。（保育観や環境づくりについて）
- ☆ 一方通行ではなく、幼稚園教諭・保育士とアドバイザーとの双方向の研修をめざしていきたい。
- ☆ 善通寺市の子どもたちの育ちの保証を。何を保証するのかを考えていきたい。
- ☆ どの園・所も、「教育課程」、「保育課程」、「指導計画」、「指導案」をもとに参観し、協議をさらに充実させていきたい。

アンケート調査による保育者の意識の実態について

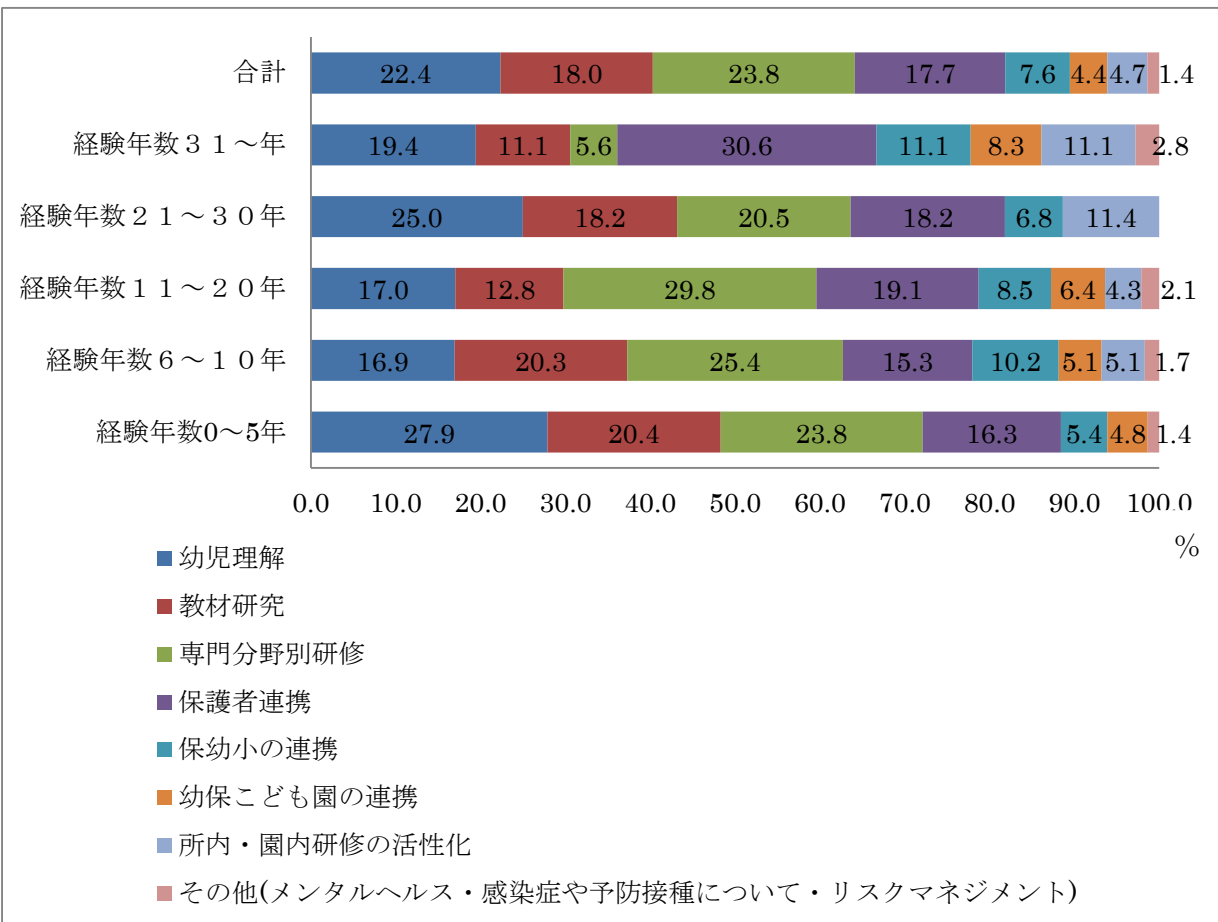
平成28年7月実施

① これまでに参加した研修の満足度はどの程度ですか。

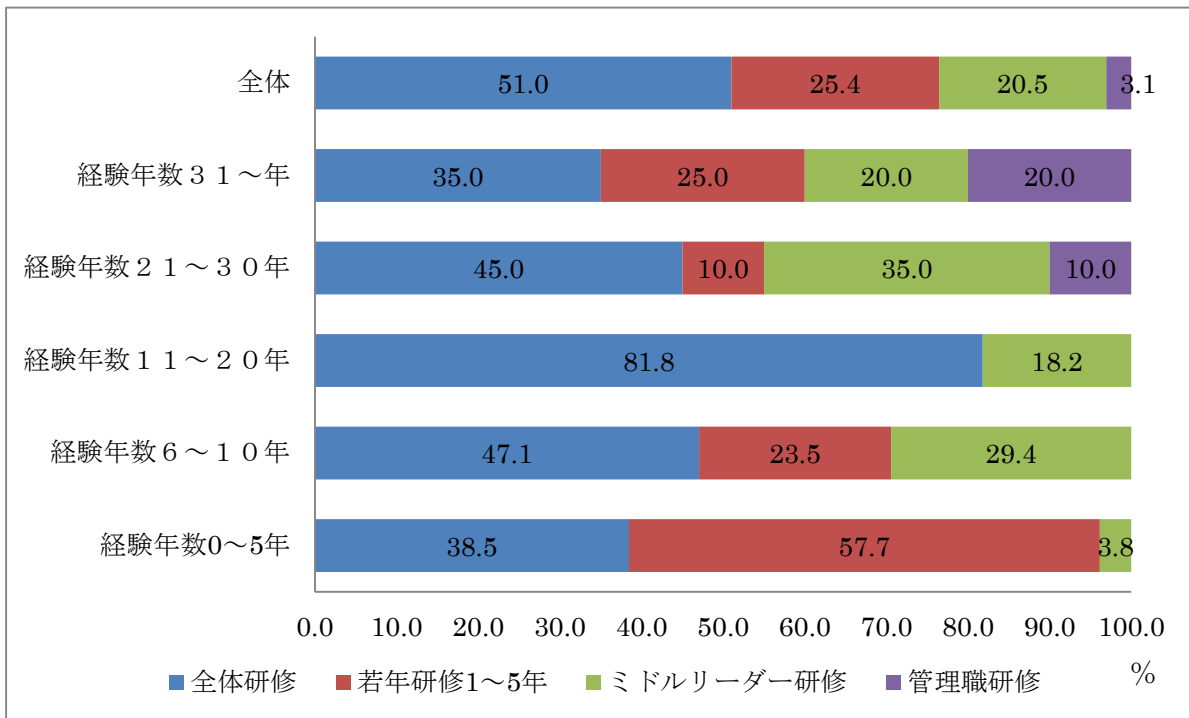
市内15施設163名対象



② 今後、どのような研修をしたいですか。(研修内容)



③ 今後、どのような研修をしたいと思いますか。(研修形態)



【アンケート結果より】

市内保育所(園)・幼稚園15施設の保育者163名から得たアンケートより、経験年数別に上記①～③の質問についてまとめた。

質問①について

- 研修内容については、「幼児理解」や「折り紙・わらべ歌」等さまざまであるが、どの経験年数においても保育者の約9割が「満足」・「おおむね満足」している。
- 教職経験年数別にみると、ミドルリーダーである経験年数11～20年の保育者の肯定的な思いが低い。今後、新しい研修を望んでいるのかもしれない。

質問②について

- 保育者全体で見ると、希望する研修内容は多い順に、「専門分野別研修」、「幼児理解」、「教材研究」となっている。
- 当然のことではあるが、教職経験年数によって、希望する研修内容が異なっており、経験年数別の研修を企画していく必要がある。
- 今後の研修内容については、経験年数0～5年の保育者は「幼児理解」研修を最も必要としており、経験年数6～20年の保育者にあってはリズム・自然・絵画等「専門分野別」研修、経験年数31年～の保育者は「保護者連携」研修を最も必要と考えており意識の変化が見られる。

質問③について

- 研修形態について、経験年数11～20年の保育者を中心に、ほとんどの経験年数において「全体研修」を最も多く希望している。経験年数0～5年の保育者については、60%近くが「若年研修（1～5年）」を最も多く希望している。
- 多くの園・所において若年者が増加してきていることにより、園・所内研修だけでは十分な研修ができなくなっているという声も聞かれた。市として、経験年数0～5年の保育者中心に、必要としている「幼児理解」「専門分野別」の研修を充実させていく必要性を感じている。

「上記②の質問についての理由」と「日頃困っていること」についての回答は、次のページ以降の通りである。

② 「今後、どのような研修をしたいですか。(研修内容)」に係る理由(抜粋)

【0～5年経験者】

幼稚園

- 教材研究の仕方について知りたい。自分の幼児理解を深めたい。
- 情緒的な障がいがある子どもの増加に伴い、様々なタイプの子どもの事例や具体的なかかわり方を学びたい。
- 今抱えている課題を解決するヒントになったり、専門分野を研修することで保育の質の向上に努めたりしたい。
- リズム・絵画などの研修がない。保幼の成長段階の違いを知り、それをつなげたい。
- 子どもと信頼関係が築けるよう幼児理解ができるようになりたい。
- 遊びやわらべ歌などのレパトリーを増やしたい。
- 保護者とのかかわり方について学びたい。
- 様々な年代の方々の話を聞きたい。

保育所・園

- 子どもの発達はそれぞれなので、行動がどのような意味をもつのか理解したい。若い人の意見も聞きたい。
- 年々保護者対応が難しくなっているから。
- 卒業して勉強する機会も少なく、他の園の公開保育を見る機会が欲しい。
- アレルギー対応について知識を得たい。
- 障がいをもつ子どもや虐待を受けている子どものことを学びたい。
- 地域的に3歳から幼稚園に行くので、どこまでどのように成長していたらよいのか、また、小学校にあがるまでに必要なことは何かを知りたい。

【6～10年経験者】

幼稚園

- こども園に関する研修がしたい。
- 絵画の指導が難しいと感じるから。
- 自己の専門性を高めるため。

保育所・園

- 保護者への対応、家庭支援が難しいと感じている。
- 専門的なことを身に付け、保育に生かしたい。
- 豊富な知識や実体験を積んで、より豊かな保育がしたい。

【11～20年経験者】

幼稚園

- 幼児とのかかわりが難しいと感じているから。

保育所・園

- 発達理解や人権の研修に参加しているが、実践に役立つような遊びの内容に触れたものは少ないように感じるから。
- 善通寺市は保・幼の連携がとれていないから。
- 伝統的な遊びや現代の新しい遊びを取り入れていきたい。
- リズム遊びや手遊び、わらべ歌など、すぐに持ち帰って遊べるものを学びたい。
- 気になる子の発達について学びたい。
- 保育看護について知りたい。

【21～30年経験者】

幼稚園

- 幼児一人一人の可能性を最大限に生かせるような指導・支援ができるようになりたいから。
- 今後は保護者への対応が大切になってくるから。
- 専門性を高めることが指導技術向上につながる。経験年数に則した役割を発揮することが園全体の活性化につながる。
- 幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続をするための指導方法。幼小の接続期における段差を解明することについて学びたい。
- 自分の置かれている立場で、若い人に何を伝えていけばよいのかを学びたい。
- 教師間の相互理解を深め、日々の保育に生かすため。今までと違った視点から、意識改革を図る。

保育所・園

- 経験年数毎での話し合いをすることで理解し合えることがあるから。
- 自主研修が若い時のようにできていないように感じる。新しいヒントが欲しい。
- 最近、保護者とのかかわりが難しいと感じるから。
- 個々の資質の向上とチーム力のアップを図りたい。

【31年～経験者】

幼稚園

- 若い先生の指導力・技術力を伸ばしていく必要がある。
- 若年層の教師が増えたことと、ミドル世代が少ないため、園内の様々な事象が継承されにくい。
- 幼児理解をする力、保護者との連携を深める”つながりあう”ことを通し、子育ての楽しさを感じるような関係を作り合うことで、若い教師の力が育ち、やる気を高め合えると思う。
- 「子ども像」、「子ども評価」について話し合い、共有することが大切。若年研修は必要。
- 保護者のPTA活動参加者に偏りがあるため。

保育所・園

- 若い保育士の資質向上のため、具体的でわかりやすい研修を希望する。
- 所内の研修時間がとりにくい。
- 子育て支援において保護者が欠かせない存在であるから。
- 立地条件を生かして、保幼小の連携を深めたい。
- 日本保育保健協議会があり、保育の保健に関する研修会を実施しているが、認知度が低く参加者も少ない。看護師がいるいないに関わらず、職員は保育保健に対する知識を高めてほしいから。

「日頃の保育などで、困っていることはありますか。それはどのようなことですか。」（抜粋）

【0～5年経験者】

幼稚園

- 自己有用感を高める異年齢による合同保育での交流や活動の在り方。
- トラブルを起こしてしまう子に対して、次に同じことが起こらないようにするための言葉かけの仕方が分からない。
- もっと頑張ろうと思えたり、背中を押せたりするような言葉かけ・叱り方。
- 行事の準備や練習などやらなければならないことが多すぎて子どもたちが好きな遊びを楽しむ時間が取れない。
- 集団活動になかなか取り組めない子への対応。

保育所・園

- 障がいがあると診断されていない気になる子どもへの対応やその保護者との関わり方。
- 子ども一人一人にかかわる時間がない。
- ゆとりがない。書類が多い。
- 家庭背景が見えにくい保護者や子どもとのかかわり方や連携。

【6～10年経験者】

幼稚園

- 子どもや保護者とのかかわり方。
- 特別支援教育について。
- クラス全体で集団遊びをじっくりする時間が取りにくい。
- 言葉が出ない子どもの気持ちや言いたい事を十分理解してあげられているか。
- トラブル時の対処方法、心に響く言葉かけ。

保育所・園

- 書類の負担が大きい。
- 子どもの人数が多くゆとりをもってかかわれない。
- 保育内容や配慮事項など、保育の見通しを持ちたいが、具体的な話し合いがもてず、個人プレーになりそうなこと。

【11～20年経験者】

幼稚園

- 気になる子への支援。

保育所・園

- 運動遊びをのびのびとさせてあげたいが、内容がパターン化してきているので年齢に応じた内容について学びたい。
- 子どもの発達について保護者に伝えるとき、伝えにくいことを伝える場合の伝え方。

【21～30年経験者】

幼稚園

- 子ども一人一人に対する援助や保護者への対応。
- 行事等で子どもたちに継続させたい遊びが中断してしまう。
- 日々の保育がマンネリ化していないか。新しいことを取り入れる柔軟性に欠けている。

保育所・園

- 教材準備などの時間がない。
- 保護者との対応が難しい。
- 子どもの行動についての子ども理解。

【31年～経験者】

幼稚園

- 研修をする時間が取れない。指導力を伸ばすためには、園内だけでは限りがあり刺激し合う場が少ない。
- 行事の精選。園長として職員一人一人の持ち味や努力を認め、教育実践を力強く支えていくことの難しさ。
- 現職教育の活性化。

保育所・園

- 研修の機会を与えたいが、人手不足のため、しわ寄せが大きいこと。

【参考資料】

幼児教育の推進体制構築事業アンケート

記入日 平成 年 月 日

() 所・園 経験年数 () 年 氏名 ()

- 1 これまで、あなたが参加したり、実践したりしてきた主な研修はどのようなものですか。
(所内研修・園内研修も含む)

研修名	研修内容	満足度				
		満足 5	おおむね満足 4	ふつう 3	やや不満 2	不満 1

- 2 今後、どのような研修をしたいと思いますか。

○内容別

- () 幼児理解
 () 教材研究
 () 専門分野別研修 (リズム・自然・絵画・)
 () 保護者連携
 () 保幼小の連携
 () 保育所・幼稚園・こども園の連携
 () 所内・園内研修の活性化
 () その他 ()

○階層別研修

- () 全体
 () 若年研修 1～5年
 () ミドルリーダー研修
 () 管理職研修
 () その他 ()

それはなぜですか。

- 3 日頃の保育などで、困っていることはありますか。それはどのようなことですか。

ありがとうございました。

市内幼児教育施設の概要

- 1 善通寺市立中央幼稚園
- 2 善通寺市立東部幼稚園
- 3 善通寺市立西部幼稚園
- 4 善通寺市立南部幼稚園
- 5 善通寺市立竜川幼稚園
- 6 善通寺市立与北幼稚園
- 7 善通寺市立筆岡幼稚園
- 8 善通寺市立吉原幼稚園
- 9 善通寺聖母幼稚園
- 10 善通寺市立善通寺保育所
- 11 善通寺市立竜川保育所
- 12 カナン子育てプラザ2 1
- 13 社会福祉法人愛和福祉会
吉原保育所
- 14 社会福祉法人船入福祉会
南部保育所
- 15 のぞみ保育園

善通寺市立中央幼稚園

1 本園の教育

【教育目標】

豊かな心を持ち たくましく生きる子どもを育てる

【期待する子ども像】

- 力いっぱい遊ぶ子ども
- 支え合う子ども
- 根気強い子ども
- よく見・よく聴き・考える子ども

【教育方針・努力目標】

教育方針

- 望ましい生活習慣や態度の育成を図りひとりだちのできる子どもを育てる。
- 地域の自然や人々と触れ合う中で、豊かな感性と思いやりの心を育てる。
- 意欲をもって遊びに取り組んだり、いろいろな環境に主体的にかかわって生活したりする力を育てる。
- 幼・小・中との連携を深め、五訓を共通理解し、自己有用感の育成に努める。

努力目標

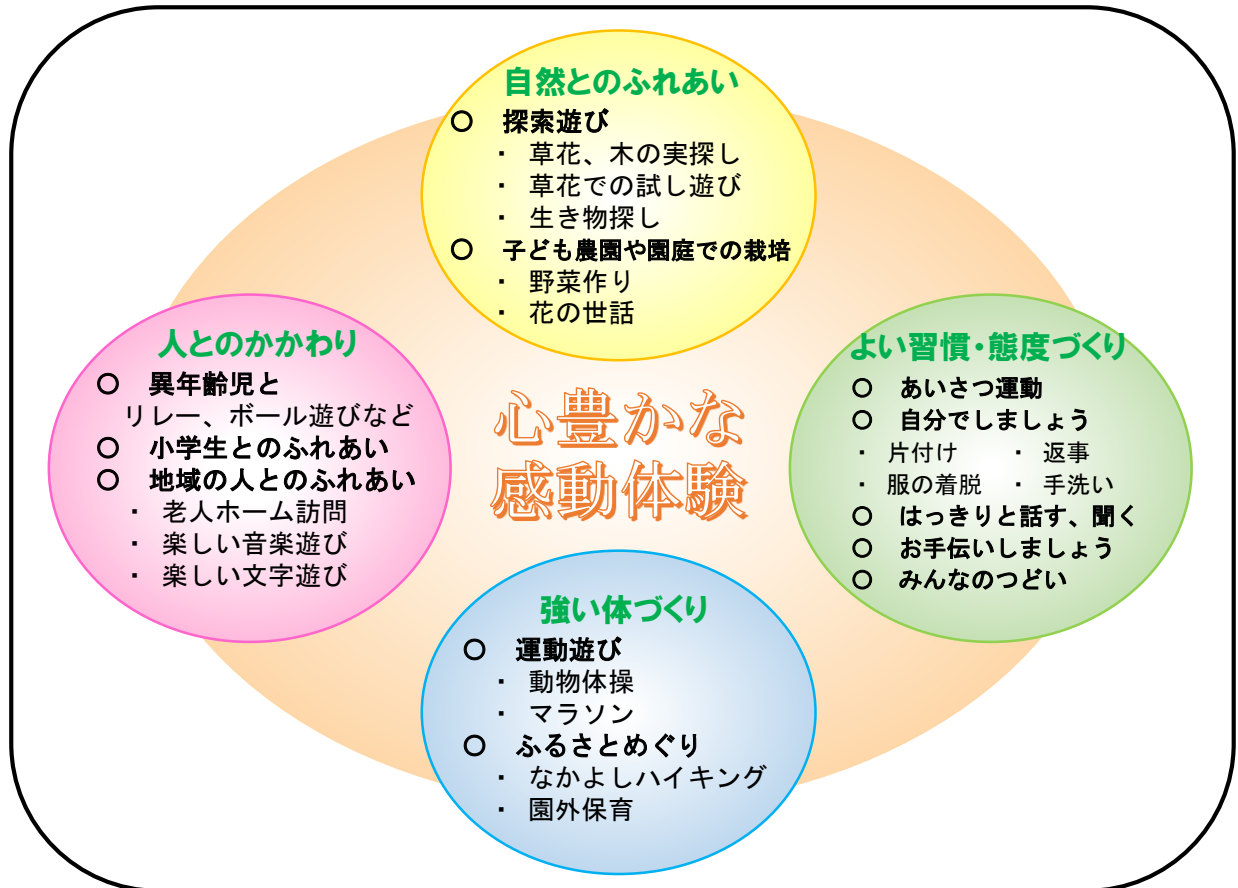
- ・ 一人一人の子どもが自己発揮できる環境を構成し、充実感が得られるような保育内容を工夫する。
- ・ 同年齢、異年齢、教師との人間関係が深まるような遊びを工夫する。
- ・ 地域の自然や人々、動植物とのかかわりを通して、豊かな心情、感性を育てる体験活動を大切にする。
- ・ 個人記録や情報交換をもとに、子ども一人一人の個性を重視し、よさを伸ばしていく指導のあり方を探る。
- ・ 地域や家庭と相互理解・連携を深めていきながら信頼関係を築き、触れ合い活動等の交流を通して、幼児を核とした連携の充実を図る。
- ・ 幼・小・中との連携を密にし、交流を図りながら連続性のあるかかわりや滑らかな接続をめざし、一人一人の育ちを大切にする。

2 園児数

平成28年12月1日現在

年齢	3歳	3歳	4歳	5歳	5歳	合計
クラス名	もも	ちゅうりっぷ	たんぽぽ	ゆり	すみれ	5
園児数	13	13	26	18	18	88

3 特色ある教育活動



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 保育後の討議の形態が、グループ討議であり、自分の考えや思いを話しやすい場であった。
- 学年別に分かれて協議することで、より専門的な指導や助言を受けることができた。自分の保育について、とても深まった話し合いになり勉強になった。
- 各クラス担当の指導者がおり、保育の始まりから終わりまで見てもらえ指導の流れや園児の表情や態度・動きや言葉まで丁寧に細かく参観してもらえることができた。そのため、細やかな指導をしていただけた。

【課題】

- 普段の保育は午前中の活動が多いので、訪問は午後より午前中の方が普段の保育を見てもらうことができると思う。午後からになると、特に3歳児は午前中の保育の疲れで眠たくなったりすることがある。
- 自分のクラスのことはよくわかるが、他のクラスに対する助言も聞きたかった。そこから学ぶこともあると思う。しかし、時間的に難しいとは思う。
- 子どもたちが主体となった自由保育や異年齢保育の場や生活全体の場面などを指導してもらえる機会があればいいと思う。

善通寺市立東部幼稚園

1 本園の教育

教育目標

優しい心と豊かな感性をもち
たくましく生きる子どもを育てる

めざす子ども像

- 友達と一緒に遊ぶ元気な子ども
- きまりや約束を守る子ども
- 最後までがんばる子ども
- 思いやりのある子ども
- 自分のことが自分でできる子ども
- 興味・関心をもち自分から働きかけのできる子ども

重点目標

- 幼児自ら環境に働きかけ、意欲をもって遊びに取り組む中で、思考力・表現力を高める。
- 運動遊びを通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、元気な体をつくる。
- 望ましい生活環境や態度の育成に努め、ひとりだちの基礎づくりをする。
- 地域の自然や人々との触れ合いを通して、豊かな感性と思いやりの心を育てる。

2 園児数

平成28年12月1日現在

年齢	3歳	3歳	4歳	4歳	5歳	5歳	合計
クラス名	ばら	たんぽぽ	もも	ゆり	さくら	すみれ	
幼児数	14名	14名	18名	18名	16名	16名	96名

3 特色ある教育活動

実体験の環境構成の工夫を

～人とのかかわり・自然との触れ合い・よい習慣・態度づくり・強い体づくりを通して～

<人とのかかわり>

☆ 人とのかかわりを通して、子どもたちが主体的に遊びや活動に取り組めるように、環境構成や援助を工夫する。

- 友達とのふれあい
 - ・グループ遊び・同年齢・異年齢遊び
- 地域の人とのふれあい
 - ・ファミリー運動会
 - ・秋季大運動会
 - ・幼小交流会
 - ・高齢者とのつどい
 - ・食育教室



<自然とのふれあい>

☆ いろいろな活動や遊びを通して、自然の変化に気付いたり、発見を楽しんだりして、心豊かな経験につなげる。

- 吉田の里めぐり
 - ・観察遊び・採取遊び・探索遊び
- 動植物の飼育栽培
 - ・夏野菜の栽培・飼育物の世話
- 園庭で遊ぶ
 - ・小動物探し
 - ・試し遊び
 - ・草花摘み



<よい習慣・態度づくり>

☆ 毎日繰り返し行う。教師が手本となるなど定着できるように努力する。

- あいさつ
- はっきりと話す
- 正しい姿勢で話を聞く
- 自分のことは自分で
 - ・片付け・手洗い・服の着脱
- 友達と一緒に
 - ・当番活動
 - ・きれいにしましょう(園庭や園周辺の掃除)



<強い体づくり>

☆ 子どもたちが進んで楽しく運動遊びに取り組めるように、興味・年齢に応じて遊具などの環境を工夫する。

- おひさま広場
 - ・リレー・スケーター・一輪車・なわとび
 - ・フラフープ・巧技台・ボール遊び
 - ・雲梯等
- 吉田の里めぐり
 - ・おにぎりハイキング
 - ・散歩
- がんばり大会



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】 ・ 幼児の遊ぶ様子から遊びのどこに課題があったのか、その課題を遊びの内容や手だて、環境構成の点から解決していくかを教師自身が考えたり、教師間で話し合ったりする機会が増えてきており、保育に深まりが見られだした。

・ 遊びのねらいや予想される幼児の活動を想定しておくが、実際の幼児の反応や思いに寄り添って、遊びを進めていくことが大切であることを実感した。

・ 教師が幼児の遊びの様子から次の日につながる手だてや環境を考え準備していくことで幼児自身も遊びを発展させたり、工夫したりすることができるようになってきている。

【課題】 ・ 遊びを通して、幼児一人一人が何をどのように楽しんでいるか、また、何に興味をもっているのかを見極め、遊びを一人一人に応じたものにしていくことが十分ではない。

善通寺市立西部幼稚園

1 本園の教育

【教育目標】

- やさしい心とやる気もち ひとりだちのできる子どもを育てる

【目指す子ども像】

- 自然や動植物とのふれあいを喜ぶ子ども
- 意欲をもって運動遊びに取り組む子ども
- 友達や地域の人とのかかわりを喜ぶ子ども
- 自分のことは自分でしようとする子ども
- 自分で考え工夫して遊ぶ子ども

【教育方針】

- 地域の自然や人々とふれあう中で豊かな感性や思いやりの心を育てる。
- 幼児自ら環境に働きかけ、遊びに取り組む中で考える力や意欲を育てる。
- 望ましい生活習慣や態度の育成に努め、ひとりだちの基礎づくりをする。
- 幼小中との連携を深め五訓の共通理解をし、自己有用感の育成に努める。

【努力点】

- 地域の豊かな自然と直接ふれあう機会を設けたり、地域の人と交流する活動を積極的に取り入れたりする。
- 戸外遊びを重視し、子どもが主体的に遊びに取り組めるよう、発達の時期に即した環境や援助を工夫する。
- 家庭との連携を密にして、一人一人の実態を把握し、望ましい習慣や態度が定着するように努力する。

2 園児数

平成29年1月11日現在

年齢	3歳児	4歳児	5歳児				合計
クラス名	もも	あか	き				
幼児数	15	19	22				56

3 特色ある教育活動

<p style="text-align: center;">自然との遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然との遊び <ul style="list-style-type: none"> ・砂、水、氷、雪 ・木の葉、木の実の採集 ・試し遊び ・小動物、虫捕り ・れんげ摘み ・寺院・史跡めぐり ○ 飼育栽培活動 <ul style="list-style-type: none"> ・金魚、メダカ、亀 ・ザリガニの世話 ・野菜一人一鉢 ・花の栽培と世話 	<p style="text-align: center;">つよい体づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊び <ul style="list-style-type: none"> ・一輪車 ・竹馬 ・フラフープ ・縄跳び ・かけっこ ・リレー ・スケーター ・ボール遊び など ○運動会 ○がんばり大会 ○香色山登山 	<p style="text-align: center;">人とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢との触れ合い <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 ・お楽しみ会 ・修了お祝い茶会 ○ 小学生との交流 ○ 地域との触れ合い <ul style="list-style-type: none"> ・独居老人宅への花配り ・もちつき大会 ・公民館まつり参加 	<p style="text-align: center;">考え工夫する遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫遊び <ul style="list-style-type: none"> ・凧作り ・こままわし など ○ 製作遊び ○ 仲よし遊び <ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊び ・集団遊び  
---	---	--	---

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 職員間での、保育内容や持ち方・園の体制・環境等について、具体的にじっくりと話し合いをする機会が増え、相談や意見交換を行い共通理解できた。
- 園全体での活動や集団遊びを見直したことで異年齢での交流が増え、全職員で子どもに関わることができ、一人一人の良さを見つけたり、幼児理解したりすることができた。
- 自分の保育の内容や教師としての姿勢、子どもへの話し方などについてご助言ご指導をいただき、見直したり考えたりできる場となり、教師としての資質向上につながった。
- 自分が取り組んでいる、子どもに経験させたいと思う活動についての方向性が確立し、主体的な活動の充実に向け、より一層努力し深めていきたいと思った。

【課題】

- 園全体の活動や環境設定をしても、季節的なことや行事に追われることが多いので、時間や場所などゆったりと取ることが難しく、継続的に行うことができない。
- アドバイザーの方からご指導をいただき、大変勉強になり、教師としての本質や保育の改善点などを考える場となった。今後の保育に生かせるよう個人だけでなく、園全体でも研修を進める体制を整えていく必要がある。
- 幼稚園と保育所との交流のきっかけの一つとして、連携に努めたい。

善通寺市立南部幼稚園

1 本園の教育

【教育目標・のぞむ幼児像】

- 心豊かで生き生きと活動する幼児を育てる。
 - ・自分のことが自分でできる子ども
 - ・きまりや約束をまもる子ども
 - ・思いやりのあるやさしい子ども
 - ・最後までがんばる子ども

【教育方針】

- 生活に必要な基本的、社会的習慣や態度の育成に努め、ひとりだちができる幼児を育てる。
- 幼児自ら環境に働きかけ、友達と遊ぶ中できまりや約束を守り、意欲的に遊ぶ力を育てるとともに、体力づくりに努める。
- 地域の自然や人々とふれあう中で、地域を好きになる心や感性豊かな幼児を育てる。

【努力事項】

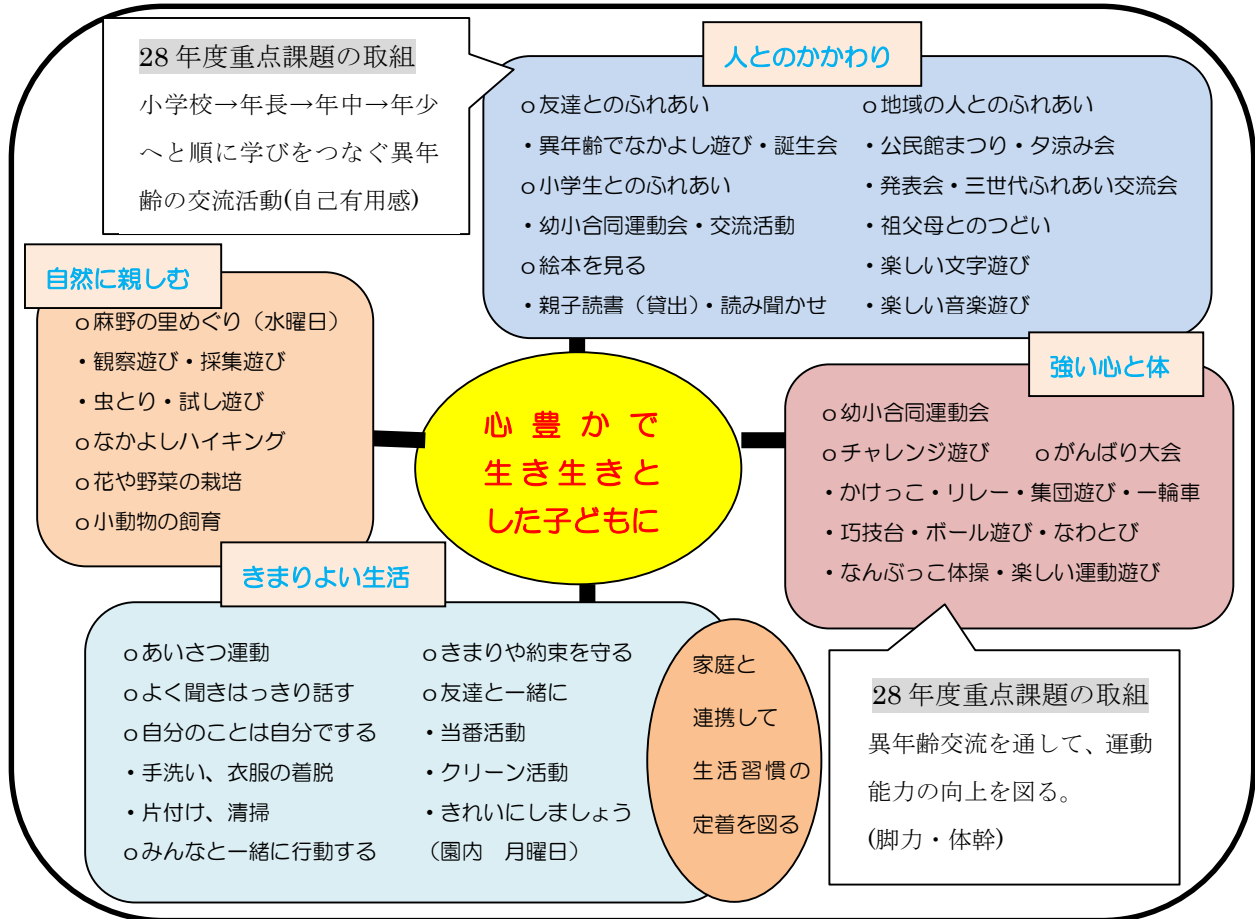
- 生活習慣やしつけについて、家庭との連携を密にし、共通理解のもとに定着を図る。
- 幼児一人一人を理解するとともに、個を認める言葉掛けを多くし、自己発揮できるような環境構成や援助を工夫する。
- 運動遊びや園外保育を通して、友達と共がんばる態度や体を動かす意欲を育てる。
- 異年齢交流や動植物とのかかわりを通して、善悪の判断や豊かな心情、思いやりの心を育てる。
- 家庭や地域、保育所・小学校との連携を図り、地域に親しみをもつ子どもづくりに努める。

2 園児数

平成28年12月28日現在

年齢	年少	年中	年長	合計
クラス名	もも	さくら	ゆり	
幼児数	25	19	25	69

3 特色ある教育活動



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

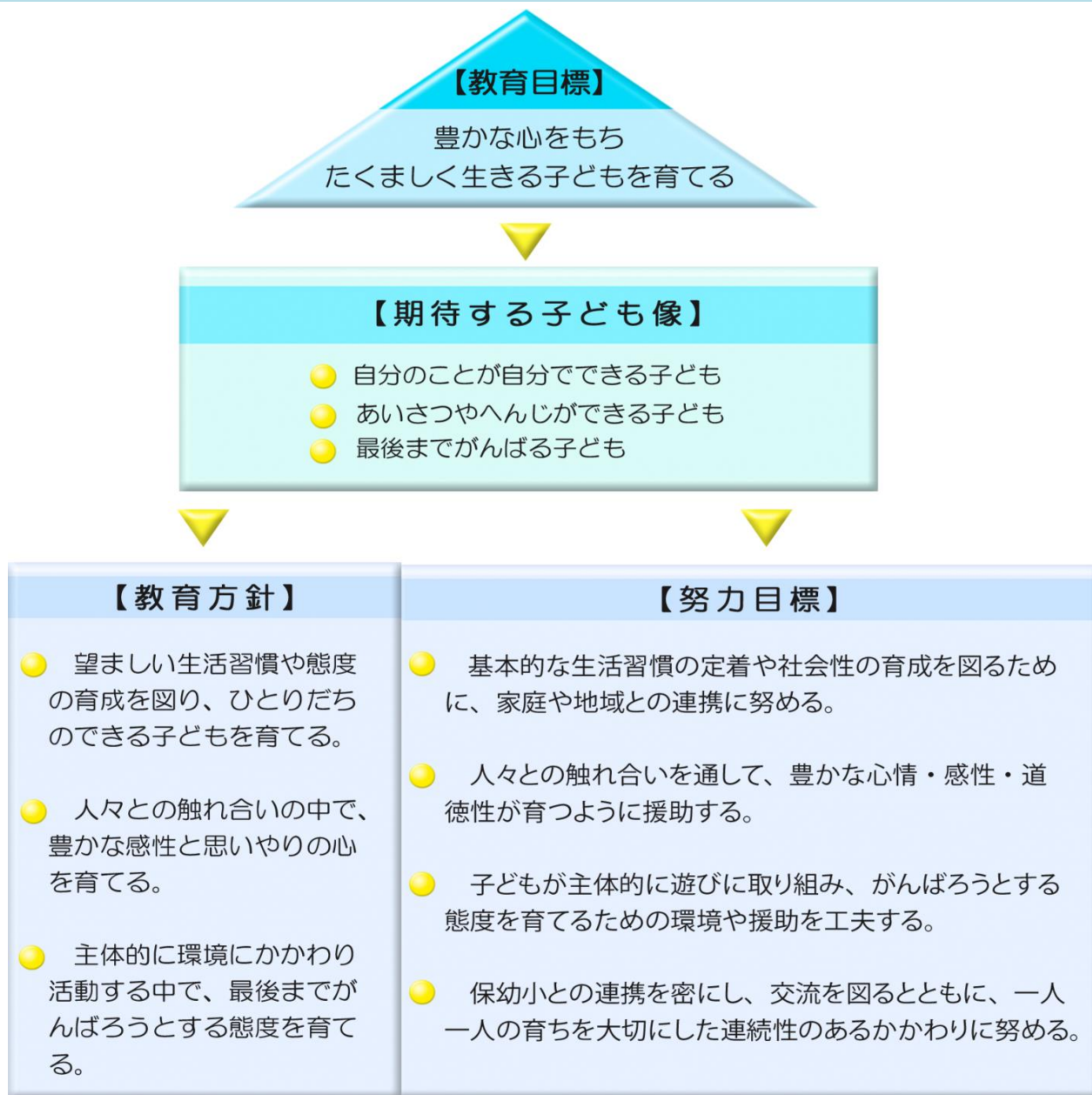
- 経験の浅い教師にとっては、園内研修以外で自分の保育について指導していただいたことが保育を見つめ直すよい機会となりよかった。
- 2回目の訪問時から、保育指導案があったことで、保育のねらいや内容、担任の意図することがアドバイザーなどの先生方にも伝わり、今までは全体で時間移動であったが、自由にクラスを歩き来して見ていただけたのがよかったと感じた。
- 行事が多く遊び込む時間が取れずにいたが、指導を受け工夫次第で確保できることがわかった。
- 異年齢でのごっこ遊びでは、年長児からの刺激があったり、模倣をしたりして遊びに対する幅が広がり、少しずつ進化しながら2か月間続いている。

【課題】

- 経験年数が3年未満の職員が半数以上いるので、自分の園だけの保育に固執せず、職員の資質向上を図るためにも、他の幼稚園や保育所での訪問の際に参観や討議と一緒に参加させていただき、保育の技量を少しずつ高めていきたい。
- 訪問日に、十分な保育の準備や遊び込んだ保育を参観していただくためにも、できれば訪問日と大きな園行事との間があくように配慮していただけたらと思う。

善通寺市立竜川幼稚園

1 本園の教育



2 園児数

平成28年5月9日

	年少			年中		年長		計
	もも	ちゅうりっぷ	さくら	たんぼぼ	ひまわり	ゆり	すみれ	
男	10	10	11	15	15	18	18	97
女	9	9	8	19	19	18	17	99
計	19	19	19	34	34	36	35	196

3 特色ある教育活動



おじいさん おばあさんの肩たきをしたり、おやつを食べたりしたよ



いないいないばあで小学生と遊んだよ

よい習慣・態度づくり

- ◇ あいさつ運動
- ◇ 自分のことは自分で
- ◇ はっきりと話す、聞く
- ◇ 毎日絵本を読む
- ◇ よい姿勢で書く
- ◇ きれいにしましょう
- ◇ みんなのつどい



夏野菜の栽培でたくさん収穫したよおいしかったよ



楽しい文字遊び姿勢を正して書いてるよ

人とのかかわり

- ◇ 異年令とかかわって
 - ・ 楽しいつどい
 - ・ なかよし遊び
 - ・ フォークダンス
- ◇ 小学生との触れ合い
 - ・ 運動会 ・ いらないばあ
- ◇ 地域の人との触れ合い
 - ・ たつのこふれあい夏まつり
 - ・ 祖父母とのつどい



いろいろな運動遊びに挑戦しているよ



心豊かな感動体験

強い体づくり

- ◇ 運動遊び
 - ・ かけっこ、なわとび
 - ・ ボール遊び、一輪車乗り
- ◇ たつかわの里めぐり
 - (春日神社、前池など)
 - ・ なかよしハイキング (園外での活動)

豊かな心づくり

- ◇ ふるさとの自然遊び
 - ・ 草花での試し遊び
 - ・ 生き物探し
- ◇ 小動物の世話
- ◇ 園庭での栽培
 - ・ 野菜づくり
 - ・ 花の世話
- ◇ 誕生会 (月1回)



たつかわの里めぐりに行って自然遊びをしたよ



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 教師は子どもの願いが実現できるように、アイデアを提供したり、遊びに参加したりして、タイミングのよい援助に心掛けることができた。
- 友達とのかかわりの中で刺激を受けながら遊びが発展するようになっている。子どもの主体的な活動を促すため、教師主導の保育展開ではなく、教師は子ども達の様々な活動が生まれやすい環境を構成することや援助者であることを担任・支援員らで共通理解した。また、一人一人の良さや可能性を伸ばすために個々の姿を把握するカンファレンスにも力を入れることができた。
- 外部指導者の招へいは、これまでにない観点での指導を仰ぐこととなり、園長をはじめ職員一同の研修意欲を喚起するものとなった。

【課題】

- 園児数が多いことに加え、園庭や教室を保育所・スタディーアフタースクールと共有しており、継続した遊びができにくい。それについて、改めて考えなければならぬことに気付いた。また、年長児の試行錯誤の場面に年少・年中児が触れることが最良の環境である。今年度は学年別の遊びになったため、その環境を生かすための工夫が必要であると感じた。
- 子どもの中から発展した遊びを展開したが、教師が活動を提案する場面もあった。これは子どもの意欲や葛藤、気持ちの動きの援助だったのだろうか。再々振り返りながら向き合っていきたい。
- 職員一同、今後も子どもの個性や能力を発揮できる研修を積み、資質向上につなげていきたい。

善通寺市立与北幼稚園

1 本園の教育

【教育目標】

- やさしい心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる。

【教育方針】

- 望ましい生活習慣や態度を育て、ひとりだちができる子どもを育てる。
- 地域の自然や人々とのかかわりを深め、豊かな感性や思いやりの心を育てる。
- いろいろな体験や活動を通して、友達と一緒に仲良く遊べる子どもを育てる。

【めざす子ども像】

- 友達と一緒に遊ぶ元気な子
- 自分大好き・友達大好きな子
- 身の回りのことは自分でする子

【努力目標】

- 家庭や地域、小学校との連携を密にし、大好きな自分づくりへの丁寧なかかわりを大切にする。
- 豊かな感性や心情が育つよう、環境の工夫や援助の方法を考える。
- 異年齢の交流活動の場を多く取り入れ、きまりを守る心や思いやりの心が育つよう援助する。
- 地域の幼児教育センター的役割を果たす園となるよう家庭や地域のニーズにあった幼稚園づくりに努める。

2 園児数・学級数

平成28年5月1日現在

学年・年齢	年少・3歳児	年中・4歳児	年長・5歳児	合計
クラス名	もも	うめ	さくら	3
園児数	1	6	10	17

3 特色ある教育活動

- なかまと遊ぶ力を
 - ・チャレンジ遊び、運動遊び（竹馬・なわとび
 - ・ボール遊びなど）・ごっこ遊び・伝承遊び
 - ・製作・発表会・リズム遊び
- 自然の中で感動体験を
 - ・ふるさと散歩（鉢伏公園・レンゲ畑・東原児童公園など）
 - ・飼育栽培活動（ウサギ・金魚・カブトムシ・めだかなど）
- 社会で生きる態度を
 - ・あいさつ・身のまわりの清潔・係り活動・徒歩通園（毎月第3週）・誕生会
- 地域・家庭との連携を
 - ・保護者学級（ミニ運動会・竹馬づくり）幼小合同運動会・夏まつり・もちつき
 - ・公民館まつり・白百合荘訪問・いものつるさし・いもほり・小学生との交流活動
 - ・未就園児とのつどい・親子読書・家庭訪問・絵本の読み聞かせなど



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 異年齢での活動を多く取り入れていることについて、年齢ごとにメリットがあり有効である。しかし、5歳児が4歳児・3歳児を気にせず同年齢の子どもたちだけで力いっぱい取り組める時間も大切であるとのアドバイスから、異年齢での活動と学級毎の活動の比率を見直すきっかけとなった。
- 全教師が一人一人の子どもにかかわろうとして、子どもの中に入りすぎているため全体への目配りが必要との指導があった。教師の役割配分や立ち位置を考え直すきっかけとなった。
- 若年教師、講師にとって具体的な指導のヒントや気づきとなるような話が聞けた。
- 指導を受けたことで、客観的に子どもを観たり、考えたりすることができ、授業の振り返りにつながった。

【課題】

- 異年齢保育の比率が高いことで、発達段階に添った見とりや一人一人への支援が適切とは言えなかった。全職員が、一人一人の育ちを十分に把握して支援できるようにする必要がある。
- 素材での遊びを十分にしておく、廃材や素材を使った遊びのイメージも沸きやすくなるので、様々な素材と触れ合いながら試行錯誤や工夫する時間を確保していく必要がある。
- 少人数園での取り組みであるので、今までは合同保育の形態をとってきた。クラスごとの遊びの様子や、指導の方法について観ていただくのには、限りがあると思われる。今後の幼稚園訪問の保育内容について工夫していく必要がある。
- 各園や保育所の保育参観等に職員が参加できるような体制の工夫や他の行事との調整が必要である。

善通寺市立筆岡幼稚園

1 本園の教育

教育目標

いろいろな活動に自発的に取り組み、
心豊かでたくましい子どもを育てる

めざす 子ども像

- ◇ 自分のことは自分でできる子
- ◇ きまりや約束を守る子
- ◇ 自分の思いが表現できる子
- ◇ 友達と一緒に挑戦する子

教育方針

- 基本的な生活習慣や望ましい態度の育成を図り、自分のことは自分でできる子どもを育てる。
- 幼児が主体的に環境にかかわり、十分に活動する中で、豊かな人間性や社会性を育てる。
- 異年齢交流や地域の自然・人々との触れ合いを通して、人とかかわる力や健康な心と体を育てる。

努力目標

- 幼児期にふさわしい道徳性や規範意識を育てるとともに、望ましい生活環境や態度の育成を図るため、家庭や地域との連携に努める。
- 保護者が幼児期の教育に関する理解を深め、幼児と共に育ち合えるような子育て支援の取組を充実する。
- 異年齢交流を通して、一人一人の豊かな人間性や社会性ととも自己有用感の育成に努める。
- 幼稚園・小学校・中学校の学びと成長を見通した西校区 12 年間の指導計画の改善・実施に努める。
- 教師の役割を明確にし、資質向上を図る園内研修等の充実に努める。

2 園児数

平成 29 年 1 月 1 日現在

年齢	年少		年中	年長		合計
	もも	き		あお	みどり	
クラス名	もも	き	あか	あお	みどり	5
幼児数	15	14	21	17	17	84

3 特色のある教育活動

健康な心と体

- よい生活習慣・態度づくり
 - ・ あいさつ運動 ・ 当番活動
 - ・ 正しい姿勢で話を聞く。
 - ・ 自分でできることは自分でする。
 - ・ はっきり話す。
 - ・ 決まりや約束を守る。
 - ・ しつけ遊び
(返事・片付け・靴並べ)
- 強い体づくり
 - ・ がんばり大会
(なわとび・一輪車・竹馬など)
 - ・ 月1回のなかよしハイキング
 - ・ かけっこ・リレー・ボール遊びなど



あいさつ運動



親子読書



誕生日



就学前授業

豊かな心

- 自然との触れ合い
 - ・ 筆岡の里めぐり ・ 小動物遊び
 - ・ 草花摘み ・ 野菜作り
 - ・ スイカがり
- 誕生日会 (月1回)
- 絵本の読み聞かせ

人とのかかわり

- 友達との触れ合い
 - ・ 園行事でのつどい ・ 異年齢交流
 - ・ 小学校との交流 ・ グループ遊び
- 地域の人との触れ合い
 - ・ 公民館まつり ・ 幼小合同運動会
 - ・ ボランティア公園夏祭り参加
 - ・ ひなまつり茶会

家庭との連携

- 親子交流
 - ・ 親子読書 ・ 親子夕涼み会
 - ・ 親子遠足 ・ 保育参加・参観
- 園と家庭が手を取りあって
 - ・ 学級懇談会 ・ 個人懇談会
 - ・ 給食参観 ・ 園だより
 - ・ がんばりっこ (生活習慣・家庭での手伝い)

小学校との連携

- 運動会 ○ もちつき大会
- 1日体験入学
- 小学生との交流学習
- 小学校教師による就学前授業

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 少人数の現職教育ではなく、幼児教育アドバイザーの方々から幅広いいろいろな意見を聞いたことで、教職員の力量や意識の向上につながった。
- 保育中の悩みやつまずきに対し、客観的な意見や指導助言をいただき、その後の指導に活かすことができた。
- 保育の進め方や教師の支援の仕方、子どもの姿のとらえ方など、すべてにおいて多面的なアドバイスをいただき、自分の考えや視野が広がった。
- 少人数のグループ討議はささいな疑問なども聞いていただく機会があり、意見をいただけたことで明日からの保育に安心感をもつことができた。

【課題】

- 他園の保育を見たり、取組について意見交換したりするなど、もっといろいろな方と討議をする場をもつことができれば、教師の資質向上につながるのではないか。
- 同じ経験年数の教師が集まって、その年代に応じた課題を出し、その課題に沿った研修を計画して進めていけば、身に付く研修になるのではないか。

善通寺市立吉原幼稚園

1 本園の教育

目 標

豊かな心を持ち、意欲的に活動する子どもを育てる。



めざす 幼 児 像

- 自分のことは自分でしようとする子ども
- 話をよく聞き、自分の思いが話せる子ども
- 友達と一緒に仲よく遊べる子ども
- 自分なりのめあてをもち、がんばる子ども
- 友達と協力して、仕事や手伝いを喜んでする子ども



教 育 方 針

- 生活に必要な習慣や態度の育成を図り、自分のことは自分でしようとする子どもを育てる。
- 幼児が主体的に環境とかかわって活動する中で、豊かな心情・意欲・態度を育てる。
- 地域の自然や人々とのふれあいを通して、自然や人とかかわる力・健やかな心身を育てる。

2 園児数・学級数

	組	男	女	計
年少	もも	11	5	16
年中	き	12	13	25
年長	みどり	10	8	18
合 計		33	26	59



3 特色ある教育活動

「生きる力」の育成

生活に必要な習慣や態度と技能の育成

- あいさつ運動
- 正しい姿勢で話を聞く
- はっきり話す
- 道具の使い方を身につける
- 本を読んだり音楽を聴いたりする
- 自分でできることは自分でする
- 決まりや約束を守る
- 好き嫌いなく何でも食べる
- みんなのために役立つ（当番活動）

強い心と体づくり

- 運動遊び
ー輪車・フラフープ・なわとび・
リレー・ボール遊び・固定遊具や移
動遊具など
- ふるさと散歩（曼荼羅寺など寺
社・地域の史跡）
- おにぎりハイキング
市民集いの丘公園・大塚池公園
など

自然とかかわる力

- ふるさと散歩
- 探検ごっこ
- 夏野菜・芋・米づくり
- 虫取り・草花摘み・試し遊び・
観察遊び・小動物の飼育

人とかわる力

- 地域の人々とのふれあい
・ 絵本の読み聞かせ・夏まつり・
公民館まつり・交通教室・保幼小
合同運動会・長寿を祝う会・田
植え～稲刈り・脱穀・ふれあいもち
つき・幼小地域交流会（案山子作
り、自然物での玩具作り など）
- 友達とのふれあい
・ グループ遊び・同年齢、異年齢
交流・小学生との合同授業

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 本事業に取り組むために、園経営、教育方針について見直しをして、具体的な実施計画等を立てることができた。
- 2回の幼稚園訪問で、日頃の取り組みを参観していただき、専門的な見識からのご指導、ご助言をいただき、日常の取り組みへの価値づけや見直し等、改善に向けて考えることができた。
- 日常の教育活動についてのひとつひとつについての教育的意義・目的から行っている具体的な活動の工夫について、職員一人一人が自己の取り組みについて振り返り、改善を図るきっかけとなった。

【課題】

- 本事業の取り組みについて、いただいた評価を園として主体的に把握、整理し、今後の取り組みの改善に向けた具体的な手立てが必要である。
- 専門的な見識に基づいた視点からの評価を、園経営の基本方針から具体的な取り組みに至るまで、保護者や地域関係者とその目的に向けたねらいの共有を図ることが大切である。
- 幼児教育の社会的・教育的役割という基本的なところから日々の具体的な教育活動への価値づけ、そしてそれに対する改善すべき具体策について職員が再確認し、主体的に改善を図ることを大切にして、資質の向上を図ることが求められている。

善通寺聖母幼稚園

1 本園の教育

【教育方針】

- ・カトリック幼稚園としてキリスト教の愛の精神を基盤に、一人ひとりを大切に、思いやりの心を育てる。
- ・子どもの心身の成長に寄与し、縦割りクラスを基礎とした保育の中で、協調性・社会性を育てる。
- ・モンテッソーリ教育を基に豊かな人格形成を支援する。

【教育目標】

『よいこ・つよいこ・あかるいこ』

なかよく元気に遊ぶ子ども

つよい心でがんばる子ども

かみさまを知り、両親に感謝する子ども

明るく素直なやさしい心を大切にする子ども

【めざす子ども像】

- ・感謝できる子ども
- ・豊かな心を持つ子ども
- ・自分の意志と判断をもって行動できる子ども
- ・よく聞き、よく見、よく考えてやり抜く子ども
- ・友だちと心を通わせ、なかよくできる子ども
- ・明るく生き生きとした子ども

2 幼児数・園児数・・・

平成29年1月1日現在

年齢	混合 (3.4.5)	混合 (3.4.5)				合計
クラス名	つき	てんし				2クラス
幼児数	19	20				39

3 特色ある保育（教育）活動

- ・縦割りクラス「つき組・てんし組」で、発達にふさわしい遊び（モンテッソーリ教具などを使い）を展開し、一人ひとりに細やかな援助を行う。

- ・小規模園の良さをいかし、全園児活動・季節の行事、親子のふれあい活動の充実をはかる。

- ・異年齢交流を通して、社会性を育む。



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- ・実際に本園を訪問していただき、子どもたちの日常の自然体な姿を見てもらえ、本園の特色を知っていただく事ができた。
- ・1回目は天候のため見ていただけなかった外遊びも、2回目では見ていただくことができ、子どもたちがのびのびと自己を表現している姿を見ていただいた。
- ・客観的に見ていただき、アドバイスをもらうことができたので、違う視点からの意見を知れてよかった。

【課題】

- ・その日、その瞬間の子どもたちを少しでも多く促え、これからも子どもたち一人ひとりの心に寄り添っていきたい。
- ・職員同士の情報交換をより密に行う。
- ・子どもたちの気持ちを取りこぼさないよう、その瞬間を大切にしていきたい。

善通寺市立善通寺保育所

1 本所の教育

【保育理念・保育方針・保育目標】

- 保育理念
 - ・ 保育を必要とする児童の養護・教育を行い、社会生活を営むための人格形成を図る。
 - ・ 子どもの最善の利益を守り、心身共に健やかに育てる。
- 保育方針
 - ・ 違いを認め合い、生命の尊さと一人ひとりの人権を尊重し、共に生きる喜びを育む。
 - ・ 子どもが人や自然と出会い、関わり、心を通わせながら成長していく生活の場を確かなものにする。

- 保育目標
 - ・ 一人ひとりが認められ、人とのかかわりを喜び
自分や人を大切に思う仲間づくりをする。

【めざすこども像】



めざすこども像

- ☆ 心身ともに健康な子ども
- ☆ 自分のことは自分でしようとする子ども
- ☆ 自分の思いを表現したり、人の話が聞けたりできる子ども
- ☆ 遊びを工夫し仲間と共に楽しむ子ども
- ☆ 友だちといることを喜び、小さな喜びも分かち合える子ども

【とりくみ】

- ☆ 生活リズム（24時間）を整え、望ましい基本的生活習慣の自立を図る。
- ☆ 友だちとふれあって遊びながら、しなやかなからだを育てる。
- ☆ 感動や驚きの体験を多くし、言葉やからだで表現できるようにする。
- ☆ 友だちのことを気にかけて、相手のことを考えられる仲間づくりをする。
- ☆ ふれあい広場の親子や地域の人たちと、わらべうたあそびやふれあいあそびを通して、親しみや思いやりの気持ちを持つことができるようにする。

2 幼児数

平成28年5月1日現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
ちゅうりっぷ組	8	4					12
もも組		14					14
きく組			16				16
さくら組				13			13
うめ組					7	3	10
幼児数	8	18	16	13	7	3	65

3 特色ある保育活動

- 家庭的な雰囲気の中で情緒の安定を図り、一人ひとりが認められ、人とのかかわりを喜び、自分や人を大切に思う仲間づくりをしていく。
- 飼育栽培活動を通して、仲間を思いやる気持ちや人に対する愛情や信頼、人権を大切にすることを育てていく。
- 地域の人とのかかわりの中でいろいろな体験を通して、自立・協調の態度・思いやる心・自分で考えて表現する力など、心豊かに育ち合う生活づくりをしていく。

<ふれあい広場> 毎月第1・3木曜日（午前9時00分～11時）に家庭で子育てをしている親子と、保育所の子どもたちが交流しふれあう機会を持っている。保育所を開放し、各年齢の保育や季節の行事に参加し、子ども同士の交流だけでなく、保護者同士も交流したりボランティアスタッフ（健康推進員・主任児童委員など）や保育士に相談したりする場となっている。

<食育活動> 新鮮な野菜くずを利用し、EMぼかし菌や米ぬかと混ぜ合わせ元気な土作りをし、元気野菜を育てて食育活動に取り組んでいる。また、栄養士さんと一緒に麹菌と大豆・塩で味噌作り体験をし、給食やおやつで味わっている。

<菊作り> 地域の菊名人の方の指導を受けながら菊を育て、咲いた菊を見ながら菊見茶会をしている。



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 保育士経験2・3年目の保育士が、保護者や職員以外の方に自分の保育を見て頂き、自分の保育を見直すという機会を持つことができた。また、アドバイザーの先生より具体的なご指導やご助言を頂き自信につながり、保育への意欲が高まっていった。また、他園の保育を見学する機会も学びになる、という温かいご助言も頂き、他保育所の保育を見学させていただく機会を得た。自分の保育所や保育との違いに気づき、子どもを中心に考えてどう関わるのが良いのか、考え直す機会を得られ、保育の質の向上へとつながった。

【課題】

- 訪問時間は午前中がよかったが保育が継続しているため、その後の協議に全保育士が参加することが難しく、中心に保育した保育士だけになってしまった。協議にもできるだけ多くの保育士が参加できるように、今後は配慮したい。
- 保育所に通う子どもと幼稚園に通う同年齢の子どもが、もっと交流できる場が増えることが望ましい。

善通寺市立竜川保育所

1 本所の保育

【保育目標】

○一人ひとりの子どもが認められ、お互いに育ち合う生活づくり

【めざす子ども像】

- 自分のことが大好きな子ども
- 自分でできることは、自分でしようとする子ども
- 自分や仲間を大切にし、支え合う子ども
- あそびや手伝いを進んでしようとする子ども
- 自分の思いを表現したり、人の話を聞こうとしたりする子ども

【方針】

- 温かく見守られているという安定した環境の中で、一人ひとりの子どもを深く観つめながらその子らしさを大切にかかわっていき、自尊感情をそだてていく。
- 生活リズムを重視して「よく食べ・よくあそび・よく眠る」子どもになるように援助する。そして、“自分でやってみよう”とする気持ちを大切に、基本的な生活習慣や態度が身につくように働きかける。
- 一人ひとりの子どもを認め合い、仲間同士励まし合ったり、助け合ったりしながら“人とかかわることを喜びとする子ども”に育てる。
- あそびや手伝い等、豊かな生活体験を通して「なぜ?」「どうして?」と好奇心を旺盛にし、しっかりと見る目、豊かに感じる心を育てていく。
- 友だちや保育士とのかかわりの中で、自分の思ったことや感じたことをことばや体で表現したり、人の話を注意して聞こうとしたりする子どもに育てていく。

2 幼児数

平成28年5月1日現在

年齢	0歳児	0.1歳児	1歳児	1.2歳児	2歳児	合計
クラス名	赤	桃	黄	青	緑	
幼児数	6	13	15	16	24	74

3 特色ある保育活動

- 世界でたった一つの宝物づくり（自尊感情を育む・家族の方の手作り作品）
- 丈夫な心と体づくり（体験型食育・元気な土作り・楽しい食事）
- 人や自然とのふれあいの体験から感じる心を大切にする。（豊かな感性）
- 絵本の読み聞かせ（おはなし広場）
- 人とのかかわり、地域との交流
 - ・保・幼・小学生との交流（いないいないばあ・公民館まつり）
 - ・福寿会との交流
 - ・中学生・高校生（職場体験・ボランティア）・大学生とのふれあい
- おしゃべり広場（保護者同士の仲間づくり）
 - ・子育てについてや「食」の悩み等、気軽に話し合う“おしゃべり広場”を年2回から随時、4時から行っています。保護者同士の仲間の輪や親睦につながってほしいと願っています。

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 幼稚園、保育所（園）の行事等では見られない普段の様子を見ることができたり、アドバイザーの方や教育委員会等の方の意見が聞けたりし、広い視野での学びができ交流ができてよかった。

【課題】

- 保育所と幼稚園の交流の場を有効に活用できるよう、職員の参加を工夫していきたい。

カナン子育てプラザ 21

『子どもから始まる保育』 『遊びの中で育つ』

1 本園の教育

【保育方針】

子どもが将来成長した時、より積極的に社会にかかわるときに必要な心と知恵・生きていく力、そして豊かな感性と深い愛情を持った人間として育つために、次のような保育方針としました。

- ①家族や保育者から愛情を受け、安心して生活や遊びを楽しむために保育環境を整える
 - ②豊かな感性を育てるために、発達に応じた実体験を味わう
 - ③感謝と尊敬の気持ちを持つため、保育者が感謝の気持ちを子どもに伝える
 - ④社会生活が円滑に営めるために、基本的な生活習慣の自立を、園生活を通して身につける
 - ⑤自分の気持ちや思いを豊かに表現できる子どもになるために、日々の生活を楽しむ
 - 園だより、クラスだより、保健だより、連絡ノートなどで子どもの姿や成長を伝え、子育ての楽しみを共有する。
 - 地域の子育てセンターとしての役割を担い、親子関係を支援する。
- かけがえのない子ども一人ひとりの人格形成の基礎を培う大切な時期であることを、保育に携わる者は意識し、愛に満ちあふれた幼児時代が過ごせるようにする。

【保育目標】

- ①思いやりの心や感謝の気持ちを持つ子どもに育てる
- ②一人ひとりを大事に、個性豊かな子どもに育てる
- ③感性を育み、思いを素直に表現する子どもに育てる
- ④自分で遊びを見つけ、自分で考える子どもに育てる
- ⑤友だちと楽しく遊び、明るくのびのびとした子どもに育てる
- 保護者の子育てを支える
- 子どもが育ち、子育てしやすい地域を支える

【子ども像】

- ①あいさつや「ありがとう」が素直に言える子
- ②明るくのびのびと遊べる子
- ③遊びや生活に意欲や関心を持ち、考える子
- ④自分の思いをことばや身体で表現できる子

2 園児数

平成28年12月1日現在

年齢	0歳児	1歳児		2歳児		3歳児		4歳児	5歳児	合計
クラス名	ことり	り す	う さ ぎ	ば ん だ	こ あ ら	く ま	き り ん	ぞう	らいおん	
幼児数	9	11	11	12	12	14	15	23	16	123

3 特色ある保育（教育）活動

*子どもが“あっ”“えっ”“なんで？”と心を動かし、自ら考え、試し、工夫し、動き、折り合いをつけるなど生活やあそびの中で実体験を大切に活動

*自然に触れ、感じ、学ぶ
(わくわくの森・雪あそび・季節ごとの山あそび・泥んこ遊び・雨の日の散歩・虫とり・飼育栽培など)

*子どもが主体的に活動する保育の流れ

*0.1.2 歳児クラスは緩やかな担当制

「この人がいるから安心」

*ことばを育む…絵本やおはなしを読む・思いを言葉に置き換える・詩を作る・カタルトで遊ぶ

*食育…観る・匂う・聞く・触る・味わう（栽培、クッキング）

完全給食・アレルギー食

*人権保育…ケンカ、トラブル、失敗などを経験しながら、自分自身で折り合いをつける力や相手の思いをくみ取り調整する力を育てる

「おかしい」「どうして」など、相手が傷ついたり、納得できないことに対して、知らん顔をしたり、見過ごしたりせずに相手に聞いたり、話し合ったりなど一つひとつを丁寧に関わる保育

*バースデーランチ…その子の生まれた日に、その子のためのバースデーランチを用意し、みんなで祝う

*お泊り保育

*地域や社会との出会い、ふれあい

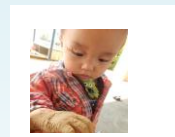
・仲善ひろばやかざみどりでお年寄りとの交流

・八日市で地域の方との交流

・電車やバスに乗り、園外活動やお買いもの体験。(切符を買ったり、お金を払うなど社会体験をする)

★延長保育 ★休日保育 ★病児保育

*写真やおたよりを通して、保育を伝える



4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

○ 保育園では就学前までの子どもが来ている。私たちは、善通寺市の3歳児から5歳児の子どもたちが、保育園でも同じように教育をしているということを小学校や幼稚園、教育委員会の方々に発信する機を得たことが大変ありがたい。教育は0歳児からすでに始まっていると思う。

○ 普段通りの生活を見ていただいた中で、「子どもたちの目がキラキラ輝いている」「子どもが主体的に遊んでいる」「幼児期に主体的に考え、行動する経験をたくさんした子は小学校の高学年になった時、なぜこうしなければならぬかと自ら判断し、行動に移すことができる。」という話を伺い、職員たちは、プラザで大切に、取り組んできた保育は間違っていないと確信し、自信になった。

個々が充実し、主体的に行動する力が育っているからこそ、仲間と繋がり集団が育つのだと感じた。

【課題】

○ もっと他の園の保育を見せていただき、意見交換やアドバイスを受けながら学びたい。特に幼稚園や小学校の先生方にも来ていただき、交流するきっかけにしたいと思う。

そのためには、2期で集中的に全保・幼・小が視察&意見交換するより、各施設が1年間で2回ずつ実施するという計画を組んでみてはどうだろうか。

○ 保育園は0歳児から就学前までの子どもがいる。今回アドバイスをいただいたように、この0歳児からの育ちが、小学校、中学校、将来へとつながる土台となる大切な時期である。ゆえに午前中、じっくりと各年齢を見ていただき、午後、職員たちとゆっくり意見交換やアドバイス、相談する時間になると、もっと現場の職員にとって充実したものになると思う。

○ 0～2歳児の保育に対してのアドバイスや意見交換をする時は、できるだけ多くの職員が参加できるように、午睡時間(おおむね13時から)にする配慮をしていただきたい。

社会福祉法人愛和福社会吉原保育所

1 本所（園）の教育

【保育の理念】

「笑顔いっぱいの子どもを育てる」

乳幼児期というかけがえのない時期だからこそ、〇〇できれば良いという従来の価値観を押し付ける保育ではなく、保育園での生活や遊びの中で子どもたち一人一人が愛情を感じながら、五感を通して学び成長していく保育を目指しています。

【保育の目標】

- 1、愛し愛される子ども
- 2、自分で考える子ども
- 3、友だちと楽しむ子ども
- 4、食に感謝する子ども

【保育の方針】

○児童福祉法に基づき乳幼児の保育を行い、子どもたちの最善の利益のために、保護者や地域社会と力を合わせて、児童の福祉を積極的に増進していきます。

○保育理念を基本として、子どもの人権と主体性を尊重し、子どもたちにとってのより良い環境や職員のかかわりに努めることで、心身ともに安心して過ごせる保育園でありたいと考えています。

○職員は、子どもたちの健やかな成長を願いながら愛情をもって接し、その知識と技術の向上に努めるとともに、社会性と良識を磨き、家族援助と啓発を行います。

2 幼児数・園児数

平成28年12月1日現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	ゆり組	ばら組	きく組			もも組	
幼児数	15名	27名	29名			1名	72名

3 特色ある保育（教育）活動

○育児担当制

生活リズムや発達状況の違う子どもたち、特に乳児・未満児にかけては、できる限り同じ保育士が担当することで、一人一人に深く関わりながら生活習慣の自立に向けた援助を行うとともに、安心感と情緒的な絆の芽生えを養います。

○遊びは教育

指導教育ではなく、子どもたちの興味関心や発達に見合った遊びと教育を結び付けることで、環境を通して生活の中から主体的に学べるように保育を行います。

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 通常の保育を観察して客観的視点でご意見をいただけるのは、自園では気付かない個所を指摘してもらい今後の保育を改善することにつながります。

【課題】

- いわゆる非認知能力という言葉が先行しているが、具体的にどんな能力を育てるのか、それをどのように教育・保育で育むべきなのか、教育要領や保育指針に沿って具体的に教えていただきたい。
- 乳幼児期の教育・保育の質について、具体的に示して頂きたい。また質を向上させるために取り組みについて教えていただきたい。

社会福祉法人船入福祉会 南部保育所

1 南部保育所の保育内容

保育理念

子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの幸せのために保護者や地域と連携し、養護のゆきとどいた環境のもとに、一人一人の子どもの健やかな心と体を育み共に育ちあう保育を目指す。

保育方針 健やかな心と体を育み、共に育ちあう保育を目指す。

保育目標 健やかな心と、じょうぶなからだを育てる。

めざす子ども像

- ◎ 豊かな自然の中で好奇心、冒険心をふくらませ、友だちと思いっきり遊べる子ども。
- ◎ 遊ぶ、食べる、眠るのリズムが整った子ども。
- ◎ 豊かな心と感性を持ち、自分の思いをすなおに表現できる子ども。
- ◎ 人や物に対して思いやり、優しさ、感謝の気持ちを持つ子ども。

とりくみ

- ◎ 自然とのかかわりのなかで季節の移り変わりに気づき、動植物への思いやりの気持ちを育てる。
- ◎ 日々の生活の中でリズムを整えながら基本的な生活習慣を身につける。
- ◎ 遊びを通して想像力を養い個性を伸ばす。
- ◎ 自然や社会にふれあう中で情緒を養い、社会性を身につける。

2 幼児数

平成29年1月1現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	あか組	もも組	き組	あお組	みどり組	みどり組	5
幼児数	12	22	24	5	1	1	65名

3 特色ある保育活動

運動遊び

「たくさんあそぼう
たのしくあそぼう」
～はしる・とぶ・なげる～

平成27年度から講師を招いての取り組みを行っています。

❀遊びの様子❀

0歳児



1歳児



2歳児



3～5歳児



みんなで季節の行事を楽しみます



「なかよしタイム」 運動遊びを中心に異年齢児での遊び



園児の保育と共に下記の保育事業を行っています。
 ❀統合保育 ❀一時預かり保育 ❀南部地域子育て支援センター「コアランド」
 ❀園庭開放 ❀子育て相談、子育て親子・修了児・地域の方との交流など

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

成果と課題

- 昨年度から取り組んでいる運動遊び（2歳児）の保育を見ていただきましたが、保育内容について十分に理解してもらえなかったように思います。しかし、指導・指摘いただいた内容について職員間で話し合うきっかけになりました。幼児教育推進体制構築事業内容を課題とし、保育の実践につなげていきたいと思っています。

のぞみ保育園

1 本園の保育・教育

【保育理念】

○愛敬の心を養い 豊かな個性を伸ばす ○子ども、保護者、地域に対して誠意真心を持って関わる

【保育目標】

「生きる喜びと生きる力を育む」

- ・健康でたくましい子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・自分で考え行動する子ども
- ・好奇心いっぱいやる気がある子ども
- ・感性豊かな子ども
- ・人とのかかわりを楽しむ子ども

【保育方針】

- 児童福祉法に基づき乳幼児の健全な育成をめざす
- 養護のゆきとどいた環境のもとに保育の安全と情緒の安定を図る
- 規則正しい生活習慣を身につけ日常生活における基本的な態度を養う
- 困難に立ち向かう心や我慢できる心を身につける ○人に対する思いやりや信頼感を育て人権を大切にする心を養う
- 自然や社会の現象についての興味や関心を育て豊かな体験を通して感じたことを表現する感性と創造性を身につける
- ことばへの興味や関心をもち豊かな情緒、思考力、表現力を身につける
- 保護者の子育てを支え子どもと子育てにやさしい地域をめざす

2 園児数

平成28年5月1日現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	うめ	もも	さくら1	さくら2	すみれ	ひまわり	ばら	
幼児数	10	26	13	14	22	30	24	139

3 特色ある保育（教育）活動

☆0、1、2歳児の保育【一人一人にあわせた育児援助とあそび】

・一人一人の生活リズムを大切に、食事・排泄・睡眠・衣服の着脱・清潔の基本的な生活習慣では、ゆるやかな担当制をとり深くかかわることで情緒の安定を図ります。遊びでは、一人一人の成長発達に合った玩具や遊びの環境を整えることで、好奇心や物に向かう力、やる気の芽を育みます。

☆3、4、5歳児の保育【5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に基づいた活動】

・様々な活動や遊びを通して仲間との関係を築き、コミュニケーション力や自己決定力を高めること、自分で考え責任を持って行動するなどの社会性を身につけるように保育環境を整えます。また、幼児期に発達に添って身につけておきたい基礎能力を獲得していく活動を年齢別にかきゅむを作成して実施します。

☆役割遊び・異年齢交流

・身近な同年齢の友達との関わりを深め協同して遊ぶとともに、異年齢児との「のぞみっこタイム」を通して、小さい友だをいたわる気持ちや思いやりの心とコミュニケーション力を育みます。



☆保護者支援活動【なかよし広場・エンジェルコンサート】

・家庭で子育てをしている親子に楽しいひと時を過ごしていただきます。また、子育て中の保護者同士が育児について情報交換をし、子育てに関する悩み解消の糸口になる場を設けています。

☆香川短期大学教官・外部講師による指導

- ◎ 音楽リズム
- ◎ 造形・絵画
- ◎ 鼓隊・合奏指導
- ◎ 運動あそび
- ◎ サイエンス
- ◎ サッカー
- ◎ 英語で遊ぼう

4 幼児教育推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

・5歳児の参観を受けて

- 子ども達が自分で考えて主体的に遊びを発展させるにはどうすればいいのか、保育者の関わり方の具体的な事例をあげてご指導いただいた。次の日に実践したところ、一人ではなかなかアイデアが出なかったが、友達と話し合うことで出し合った考えをもとに、作ったり試したり工夫しながら遊びを発展させようとする姿が見られた。
- 『善通寺の街』というテーマでのお買い物のごっこをする中で、子ども達から、2,3,4歳児クラスの友達を招待したいという意見があった。実際に招待してみると、お店にないものが注文されるという予測していなかったことが起きた。子ども達はどうすればいいのか考えを出し合い、注文を受ける、作る人にオーダーをする、お店に持ってきてもらう、お客に渡す、という流れを作り協力しながら進めていく姿が見られた。自分たちで役割を決め、友達と協力し合って遊びを発展させていこうとする子ども達の力を新たに感じる事ができて、保育者のどのようなかわりが子ども達の考える力や協力する力を引き出すのかが分かり勉強になった。
- 遊びの終わりを子ども達自身で決めると良いというアドバイスもいただき、今まで以上に遊びの終わりの様子をしっかりと見ていきたいと思う。
- 子ども達が自分から選択して遊んだり、困ったときに調べたりすることや模倣できるような素材・絵本・図鑑・写真などの環境が整っていたり、遊びの中で文字や数にたくさん触れることができていると言っていたことで、今後も継続するとともに今まで以上により良い環境作りや保育者の関わりを大切にしていきたい。
- 今回の訪問事業によって、自分たちの保育を見つめ直す機会となり、職員間の子ども理解がより深まった。

【課題】

・5歳児の参観を受けて

- 子ども達が模倣をすることができるような写真や社会見学などをもっと増やしていくとともに、子ども達が自ら想像し作ることや考えること・アイデアを出せるように保育者同士の話し合いや素材の研究等保育者自身が学びを深めていきたい。そして、どの部分を子どもに任せるか、どの部分は協力するかをしっかりと見極めて次につなげていくようにしていくことが課題である。
- 就学に向けての不安感を少しでも和らげ、入学する小学校に顔見知りの子がいるということで安心感や期待感を持つために、校区ごとに幼・保の子ども同士交流を図ることが課題である。

幼児教育スーパーバイザー、アドバイザーからの指導・助言

香川県幼児教育スーパーバイザー 永田 洋子

善通寺市内の幼稚園・保育所を訪問させていただき、乳幼児一人一人が保育者や友だちと一緒に遊んでいる姿が見られた一方で、保育者主導の学級全体の活動を行っていることに驚きを覚えました。学級全体の活動そのものは大切ですが、保育者の思いに沿った遊びの展開を行っていることや異年齢の自然な交流遊びが少ないことなどの保育者自身が保育を楽しむことができているのかということが疑問でした。保育への思いを話し合う時間がなく保育参観をさせていただいた1回目の訪問でした。

研修についてのアンケート結果から、自らの資質向上に向けた研修を通して保育の充実を希望していることも伺えました。特に若年保育者にとっては、保育内容等への研修意欲を感じました。

2学期には、保育指導案（ねらいを明確）を基に保育参観でき、幼児の興味関心を大切にした主体的な保育を行い、保育者が一緒に遊び保育を楽しもうとする姿も見られるなど保育内容の変化に驚きました。また、本時の保育や日常の保育での困りごと等の具体的な話し合いを行うことで、発達年齢からの幼児理解や興味関心に応じた心動く環境設定を行うことで、一人一人が友だちとともに遊びこむ姿（学び）を大切にするための保育を考えることができていくと感じました。しかし、施設により保育内容や取り組みの違いが大きく、研修の機会が少ないことも影響していると感じました。

これからは、平成30年度の教育要領や保育指針の改定で3～5歳児の保育内容が一緒になることもあり、市内の幼稚園と保育所がともに学び合う研修体制を行う必要性を感じています。

今後に向けて（研修体制構築に向けて）

○ 幼稚園・保育所の各施設長代表とサブリーダー各代表（公立・民間も考慮）も参加し次年度研修テーマや研修計画を行うことで、各施設等の意見や要望を反映できる協議会を設置することで、自主的な研修体制となると考え、可能な方法や内容からの研修の確保を願っています。

<内容>・・・重複する内容になる

- ・ 各施設訪問（保育参観と協議）・・・内容検討（園内研修・他施設保育者参加・・・）
- ・ 階層別研修（施設長・次期リーダー・現職教育主任研修・若年保育者・・・）
- ・ 専門別研修（特別支援教育・人権教育・保幼小中連携・・・）
- ・ 実技研修（音楽・絵画・自然・・・） ・ 乳幼児理解研修（事例研修・・・） 等

<方法>

- ・ 参加人数（各施設より〇名） ・ 時期や時間帯の工夫 ・ 担当職員（調整役）の配置
- ・ 市幼児教育アドバイザーの指導助言や外部講師の派遣 等
- ※ 保育と同様に、主体的な研修を行なうことで目的意識をもち保育の充実につながると考える。また、組織の異なる幼稚園や保育所保育のよさを認め学び合うことで、一人一人から施設全体・市内乳幼児教育の資質向上につながると考えます。
- ※ 各施設への訪問に教育長さんはじめ教育委員会や子ども課の方々が参加していただけたことが、これからの乳幼児教育の充実や連携強化につながるとともに熱意を感じました。

本年度、幼児教育推進体制構築事業として、8 市立幼稚園、1 私立幼稚園および 6 保育園・保育所の訪問を実施した。訪問の視点が「一人一人の良さや可能性を伸ばす子どもの主体的な活動の充実」となっており、主に、次の 4 点を中心に見させていただいた。

1. 遊具・教具、園庭とその自然を含めた保育環境の整備
2. 教室内外での子どもたちの活動の様子
3. 子どもたちへの保育者のかかわり
4. 園としての方針の明確化と、それに対する園全体の理解と連携

総じて各園ともに子どもたちはのびのびと主体的に活動しており、自分の遊びを精一杯工夫して楽しむことや、仲間や保育者との関わりも、十分為されていたとうかがえた。もちろん、発達段階も多様で、既に個性ともみられる特徴的な行動もみられたが、そうしたことをも受け入れられる、保育を通じた信頼関係ができていと見て取れた。

1 園だけを取り上げるのは相応しくないかもしれないが、特に印象に残ったのは「のぞみ保育園」での子どもたちだった。「善通寺の街」というテーマでのお買い物ごっこだったが、「ばていすりー」での商品のネーミングには感心させられた。木の実いっぱい「あきのもりもりけーき」、「おこりんぼうねこくっきー」、「ばーすでーけーき」と「みにばーすでーけーき」、「いっぱいいたべほうだいけーき」など、思わず食欲がそそられるネーミングだった。お肉屋さんでは色リングを使い、牛肉は白、豚肉は赤、鶏肉は黄色との区別ができており、赤と白のリングの混ざったものはミンチ肉だとのことであった。子どもたちの感性と発想の豊かさを感じ取ることができた。果物屋さんで果物の他にラーメン、ホットケーキ、たまご、アイスが並んでいたのもその子の日常の反映であろう、好感が持てた。

課題として各園から挙げられたものの中に、保育参観も含めた研修としての保育者同士の交流と、近隣の園との子どもたち同士の交流があった。保育者同士の交流はぜひ実現させたいものであるが、機会をどう作り出すかの時間の問題と、その間の保育をそれぞれの園でどう分担するかの問題が残る。また、研修の内容も単なる保育の方法論としての情報交換だけでなく、それぞれの園の地域特性の理解や保育理念の共有が求められる。ただ、「研修」と堅苦しく構えず、気軽に語り合える場が設定できればと思う。子ども同士の交流については少しばかり疑問がある。子どもたちは自分の園での人間関係や環境と、やっとの思いで折り合いをつけたところと思われるので、他の園の子どもたちと交流することは新しい世界に挑むことになり、ストレスを抱えないか心配である。子どもたちの世界観はまだそれほど大きくないのではないかと、ぜひ現場の先生方の意見を聞かせたい。

本事業もやっと途に就いたばかりで、今後の継続が必定であるが、まさに「幼児教育推進体制」として、これからも各園と教育委員会との理解と協力を進めていきたいものである。

最後に、筆者が以前訪問したことのある岐阜聖徳学園大学附属幼稚園の「自由保育」を参考までに紹介しておきたい。

まず、訪問を受け入れ、授業、保育（以下保育と称します）を見学させていただいた市内各保育所、幼稚園の皆さまに篤く御礼申し上げます。

28年度の訪問は初めての試みでしたので、訪問させていただく側も、訪問を受けてくださる側もお互い手探りの状態であった気がいたします。特に1学期の訪問では、訪問する側には遠慮があり、訪問を受けてくださる側には不安感が見受けられました。2学期になって、ようやく突っ込んだ話し合いができてきた感があります。回数を重ね、話し合いを続けることが、子どもたちが真に豊かな幼児期を過ごすという共通の目標を共有し、協働する場を作り上げていくことに繋がるのではないのでしょうか。28年度の訪問ではその土俵づくりが始まったのではないかと考えます。29年度には、一層お互いに忌憚のない意見交換ができるようになるであろうと楽しみにしております。

このような訪問が一方的な指導、あるいは批判の応酬に終わるのではなく、保育所・幼稚園の方でも楽しみに待ってくださるようなものになっていけば良い、と心から願っております。そのためにも、園・所から、今回様々なご意見が寄せられたことに大きな可能性を感じております。訪問の時期、時間等できうる限りご要望に応えたいものだと思います。

回数を重ねる中から、具体的な学びへのご要望が形をとってくれば、現場発議の研修会を市単位で行うことももちろん可能でしょうし、市内の幼稚園・保育所の先生方が当たり前のように他園・所に入出入りし、保育のアイデアを伝え合い、発展させ合うことができれば、もっと良いのではないかと思います。風通しの良い、交流の盛んな保育現場にしていければと切に願っております。

また、交流という点では、まだ経験の浅い先生方がお互いに語り合う場が欲しいというご意見はぜひとも実現させたいと願います。若い先生方に初めの情熱と夢をもって保育に携わり続けていただくためには、その情熱と夢を支え励まし合う同年代の仲間、そしてその仲間と協働する場が必要であると思います。また、そこには幼稚園、保育所の区別、各園・所の垣根を越えて、相談相手になれるファシリテーターが必要でしょう。

そうした集まりが保育を巡るケーススタディへと発展していくなら、日々の保育の場が先生方の孤独な戦いの場から、支えられ励まされる保育の場へと変化していくことになると思われまます。先生方が支えられ励まされていると感じることは日々の保育における自信と余裕になり、そのことが必ず保育の質を保障するものになると思われまます。そのためのお手伝いができるなら幼児教育アドバイザーとしても真に嬉しいことでありましよう。

最後に、28年度の訪問で抱いた疑問について述べさせていただきます。それは、幼児教育が目指す子ども像は、「小学校に行って困らない子」であっていいのか、ということです。幼児期にしか体験できない、「あそびこみ」が十分担保されることこそ、第一でなければならないのではないのか。その点、多少窮屈であるとの印象を抱くことが多かったのは残念です。そのことは「行事が忙しい」という状況にも表れていると思われまます。各行事が本当に子どものためのものであるのか、大人の都合や、大人に見せることが目的のものはないのか。再検討を要すると思われまます。

本年度から始まったこの「幼児教育推進体制構築事業」は、私にとって気付きと学びの多いものとなった。しかし、現場の先生方にとってはどうだったのか、というのが一番気になる場所である。

最初の訪問では、お互いが不信感を抱いたうえでのものであったと感じた。しかし、2回めや顔見知りになっていくと、お互いが少しずつ心を開いたり、相手の話を聴こうとする気持ちができてきたりしたような気がする。そう考えると、保育や子どもについての悩みや考えを述べる前に、先生方と私との関係性づくりをしておかないと意味がないのかもしれない。

これまでの訪問の中で感じたのは、「今行っている保育が誰のためなのか」ということを常に問いながら保育をおこなう必要があるということである。

人は誰でも習慣や慣習を何気に身に付けたり、必要なものとしてやってきたりしている。それらは生きていくうえでは重要なことではあるが、仕事（保育）となるとそれらがかえって邪魔をし、固定的で不変的なものに成り兼ねない。端的にいうと、これまでの保育では通用しない時代となっている現状がある。常に目の前の現状を把握し、誰が良い悪いではなく、必要と感じたことに対していかに誠実に対応していくか、ということが必須になる。

そこで、訪問時にいつも伝えさせてもらっていたことは、保育者自身が理想とする保育ではなく、子どもたちや保護者が必要としているかかわりを行うことが何より重要であるということであった。日々真面目に一生懸命、労力を惜しまず子どものことや保護者のことを考え動かれている先生方に対してどうかとは思ったが、そこははっきりと言わせていただいた。やはり、子どもの様子を見る、感じる、そして、考える、かかわる、もう一度、見る、感じる、…ということの繰り返しが必要となる。さらに、もう少し子どもを信用して任せてみる、そう焦らなくても引っぱらなくてもいい、大きな度量をもって、ドシッと構えて保育をおこなってほしい、ということをお願いした。

以上のようなことを伝えさせてもらいながら、私自身が「保育とは」「保育者とは」「支援者とは」などを考える機会となり、本当に有り難いものであった。

来年度（2年目）は是非、先生側とアドバイザー側との関係構築を基に、一緒に悩み考えていく対等な関係性のなかで、保育の探求をおこなっていく必要がある。そして、これからは特に保育者の心のケアをおこなうのも重要になるため、それをアドバイザーの役割とすることを提案したい。保育者へのエンパワーが何より重要であることを強調したい。

おわりに

本年度、本事業を立ち上げるにあたり、ご理解、ご協力をいただいた市内15の保育所（園）、幼稚園の方々には、心から感謝している。訪問、保育参観させていただいたことで、幼児教育に関する多くのことを各園・所から学ばせていただいた。今後さらに、先生方と共に市内の幼児教育の推進体制を充実していく考えである。

【調査研究の成果】

- ① 調査研究実行委員が、市内の保育所（園）・幼稚園15施設〔公立保育所（2か所）、私立保育所（4か所）、公立幼稚園（8園）、私立幼稚園（1園）〕を訪問することで、幼児教育の現状と課題を把握することができた。
- ② 市内の保育所（園）・幼稚園15施設の保育者163名に対してアンケート調査を行い、教職経験年数別にまとめることにより、「求めている研修内容」や「日頃の幼児教育に関する課題」等が異なり、今後の市の研修体制の参考となる保育者の意識を把握することができた。
- ③ これまで保育所（園）、幼稚園の連携の機会があまりなく、お互いの情報を交換することが少なかったが、この事業により、少しずつではあるが相互参観等が行うことができ、連携の第一歩が踏み出せた。
- ④ 市内の保育所（園）・幼稚園15施設を各2回訪問し、県幼児教育スーパーバイザーや幼児教育アドバイザーから専門的な知見からの助言や指導をいただくことにより、各園の保育の様子に「遊びこめる」・「遊びを広げられる環境設定の工夫」等の変容や保育者の意識の変容が見られた。

【今後の課題】

- ① 保育所（園）、幼稚園ともに若年者が増え、教職員、保育士の研修の機会の充実や資質の向上が課題となっているが、本年度は研修の機会を設けることができていない。園・所内の研修内容の充実や市内の研修体制を整えていく必要がある。
- ② 各園・所の相互参観を計画したが相互参観者は少なく、まだ十分な保育所（園）、幼稚園の連携体制ができているとはいえない。次年度は、さらに連携体制を進めていく必要がある。
- ③ 子ども自らの遊びの発展を促進するために様々な試みがなされていたが、今後さらに子どもたちが遊びこめる、遊びを広げられる環境設定の工夫や保育者の意識の変容が必要である。
- ④ 各年齢に応じた小学校就学までに育てたい力やめざす子どもの姿を明確にし、市内保育所・幼稚園15施設が共有することで、さらに市全体の幼児教育の質の向上につなげたい。